



タケエイグループ  
CSR報告書

2021





Only One Earth

### 編集指針

本報告書では、タケエイグループのCSR(企業の社会的責任)に関する取り組みを報告しています。巻頭では、2021年10月のリバーホールディングス(株)との経営統合に向けてトップ対談を掲載しました。「タケエイグループの価値向上プロセス」からは社会課題の解決に向けた当社グループの基本的な考え方、事業概要、財務状況について示し、続く「再資源化ソリューション」では、当社グループが行っている廃棄物の再資源化の流れをご紹介します。後半では経営理念・経営ビジョンを軸に、3つの観点(環境・社会・ガバナンス)から活動実績を報告しています。

### 報告対象期間

2020年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

※一部上記期間以外の内容も含んでいます。

### 報告対象組織

原則としてタケエイグループ((株)タケエイおよび子会社29社)を対象としています。対象範囲の異なる報告については、個々に対象範囲を記載しています。

### 免責事項

本報告書に含まれる将来に関する記述については、記述した時点で入手できた情報や計画に基づいているため、諸条件の変化によって異なる結果になることがあります。読者の皆さまには、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

### 参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」

### 発行日

2021年7月(次回予定2022年7月)

### 本報告書に関するお問合せ先

株式会社 タケエイ CSR推進部 ISO推進グループ  
〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目4番1号 A-10階  
TEL:03-6361-6836 FAX:03-6361-6839

# 環境を守ることは、未来を守ること

タケエイグループは「総合環境企業」として  
資源循環型社会への貢献を目指します

## CONTENTS

編集指針	01	■ 経営体制	
TOP MESSAGE	03	コーポレート・ガバナンス	25
<b>特集</b> TREホールディングス誕生	05	■ 環境のために	
The Top Talk トップ対談2021	07	環境とのかかわり	27
タケエイグループの価値向上プロセス	13	事業活動に伴う環境負荷	28
タケエイグループの事業概要	15	エコ・ファーストの取り組み	29
財務ハイライト	17	環境負荷低減活動	30
再資源化ソリューション	19	■ 社会のために	
タケエイグループのCSR	23	お客さまのために	31
		安全衛生のために	32
		従業員のために	33
		地域・社会とのかかわり	35
		■ タケエイグループについて	
		役員一覧	37
		会社概要	39
		事業拠点	40







## 総合環境企業としてさらなる進化を遂げ、 地球環境を守る企業集団をつくる

2020年春から続く新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの生活と経済活動に大きな影響を及ぼし、デジタルトランスフォーメーションによる働き方改革など、様々な変化をもたらしました。改めて、医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーの皆様に心から敬意と感謝を表するとともに、感染された方々のご快復と、ワクチン接種促進等による状況の改善を祈念申し上げます。

私たちはこの度、金属、廃家電、使用済自動車等の総合リサイクル企業であるリバーホールディングス株式会社と、共同持株会社設立(株式移転)による経営統合を行うことに合意し、両社株主総会における承認を得て、10月1日に「TREホールディングス株式会社」が発足する運びとなりました。お互いに「地球環境を保全する」という経営理念を掲げており、専門分野は違えど環境を守ることやリサイクルへの熱い思いは同じです。そして、専門分野が異なることによって、「1+1」が3にも5になるようなシナジー（相乗効果）を発揮できると確信しています。

タケエイグループの事業は、真摯に取り組むことがそのまま、環境保全に直結します。タケエイは1967年の創業以来、54年に渡って建設系廃棄物の一貫処理体制を構築してきたほか、近年では廃棄物の再生原料化、製品化といった製造業としての役割も備えつつあります。また、M&Aや協業化により、再生可能エネルギー、環境エンジニアリング、環境コンサルティングにも事業領域を拡充し、お客様のご要望にワンストップで対応できるよう、グループ各社が一丸となって総合環境企業としての体制づくりを進めてきました。そして今、よりスピーディーかつ効果的に環境問題を解決すべく、リバーホールディングス株式会社と共に新たなステージへと踏み出します。

「総合環境企業として資源循環型社会に貢献する」という経営理念は、今後も決して揺らぐことなく、タケエイグループの座標であり続けます。また、この経営統合はゴールではなく、地球環境を守る新たな企業集団をつくるスタートです。ステークホルダーの皆様には、今後とも末永くご理解ご支援を賜りたく、よろしく願い申し上げます。

代表取締役会長 **三本 守**

代表取締役社長 **阿部光男**

# 総合環境企業としての NEXTステージ

経営統合により取り扱う品目・顧客ともに多様になり、  
さまざまな廃棄物の発生から再資源化プロセスまでのワンストップサービスを拡充するとともに、  
統合によるシナジー効果を発揮してまいります。  
TREホールディングスは、たくさんのお客さま・地域住民の方々にとって安心、  
安全な廃棄物処理をご提供する「静脈メジャー」を目指します。

## 統合によるシナジー効果例

### リサイクル事業の深化 廃棄物を「資源」に

両社のもつ処理実績、物流ネットワーク、ノウハウ・技術・信用といった経営資源を掛け合わせ、  
リサイクルの高度化と業績向上を目指します。

### エネルギー事業の推進 「2050年カーボンニュートラル宣言」への対応

既存のバイオマス発電施設の安定稼働に加え、RPFを活用した廃棄物発電等の再生可能エネルギー  
事業化を推進し、「脱炭素社会」の実現に貢献していきます。

### 新たな技術の開発 さらに深化と進化を目指して

技術・人材の交流により長年蓄積されたノウハウ・ドゥハウを結集し、  
新たな技術開発とその実装への加速を図ります。



# 2社統合

# TREホールディングス

# 誕生

※2021年10月1日(予定)  
統合予定日(共同持株会社設立登記日)

Tは、新たな技術開発(Technology)・挑戦(Try)  
Rは、リサイクル深化(Recycling)・エネルギー事業推進(Renewable Energy)  
Eは、地球環境の保全(Earth、Ecology)  
全社共通の想いと目的を新しい会社名に織り込みました。  
2社統合の相乗効果により、リサイクルの高度化と、さらなる業績向上を実現してまいります。  
ご期待ください。私たちのNEXTステージが始まります。



## 株式会社タケエィ

**物量** 約120万t  
(再生可能エネルギー燃料を含む)

**主業** 産業廃棄物処理・リサイクル、  
再生可能エネルギー事業

**拠点** 首都圏、東北、北陸、甲信ほか

**物流** 収運車両約400台

**主要顧客**  
大手建設会社、ハウスメーカー等



## リバーホールディングス株式会社

**物量** 約80万t

**主業** 金属リサイクル、  
自動車・家電リサイクル、廃棄物処理

**拠点** 首都圏、関西ほか、海外(タイ)

**物流** 収運車両約130台

**主要顧客**  
大手製鉄会社、商社等



株式会社タケエイ  
代表取締役社長

阿部 光男

リバーホールディングス株式会社  
代表取締役社長執行役員

松岡 直人

## 2社の統合をスタートとして 企業規模のスケールアップを図っていく

### 動静脈連携には、静脈企業にも一定の規模が必要

**阿部:** 今回、同じ「循環型社会に貢献する」ことを理念に掲げている2社が経営統合することになりましたが、私は、今の新型コロナウイルス感染症の流行が終息したあとには、気候変動や廃プラスチックによる海洋汚染などの環境問題が、再び最優先で取り組むべき社会課題になることは間違いないと思っています。

**松岡:** それは私も同じ認識です。昨年5月には、経済産業省から「循環経済ビジョン2020」が発表され、大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済システム「リニアエコノミー（線形経済）」から脱却し、廃棄物を再生材として循環させる「サーキュラーエコノミー（循環経済）」へシフトすることの重要性が示されました。そのためには、動脈産業と静脈産業<sup>※1</sup>の連携が不可欠であることも指摘されています。

**阿部:** 国や行政が政策という形で動静脈連携の重要性を打ち出してきたことは、非常に大きな意味をもちますね。

**松岡:** ええ。経済産業省の言うとおり、もちろん動静脈連携は重要です。しかし、動脈企業と我々静脈企業では、まだまだ会社の規模や社会からの認知度など、さまざまな意味で差があります。私は以前から、動脈産業との連携を深めるためには、静脈側にも一定の規模感が必要だと言ってきました。そのためには、志を同じくする会社と一緒にあって規模のスケールアップを図っていくことが大切で、今回の経営統合をその第一歩として考えています。

**阿部:** 私も、この2社の経営統合で終わりではなく、むしろスタートだと認識しています。今は後継者不足で事業承継に悩まれている静脈企業が増えていくと聞きますから、その中から「一緒にやりたい」という声が上がってくれば、この統合をスタートとしてさらにスケールアップを図っていくことも、現実として視野に入ってくるだろうと思っています。

**松岡:** まずは、静脈産業の中で、企業としての存在感を増していくことが重要ですね。そうすると、動脈産業側から見える景色も違ってくると思っています。動静脈連携が求められる今だからこそ、まず静脈産業界の牽引役を担う「静脈メジャー」と呼ばれる存在になろうというのが今回の経営統合の目的の1つであること

※1：動脈産業と静脈産業

生物の血液の循環に例えて、製造業など製品を生み出す側を「動脈産業」、その廃棄物を回収して再生・再利用・処理・処分などを行う側を「静脈産業」と呼ぶ。



【トップ対談2021】

# TREグループは、静脈産業界をリードする 「静脈メジャー」を目指します

タケエイグループは、これまでも「総合環境企業」への成長を志向してきましたが2021年10月に、そのNEXTステージへの飛躍に向けてリバーホールディングス株式会社と経営統合することを決定しました。そこで、リバーホールディングス株式会社の松岡直人社長をお招きし、すでに公表されているプレスリリースには掲載されていない新生TREグループが目指す「未来のありたい姿」についてトップ二人の想いを語り合いました。

※上記役職名は対談時。2021年10月1日の経営統合で松岡直人はTREホールディングス株式会社の代表取締役会長に、阿部光男は同社代表取締役社長に就任予定。  
(2021年5月17日 株式会社タケエイ東京本社において実施)

を、ここで再確認しておきたいと思います。

## 同じ志を持つ会社があれば、グループに迎えていく

**阿部**：今回は、経営統合の方法として「共同持株会社」という形式を選択し、どちらかがどちらかを一方的に吸収するわけではなく、ましてTOB<sup>※2</sup>を行ったわけでもないの、両社ともに企業体力をほとんど使わずに済みます。

**松岡**：そうですね。私もこれまで何度か経営統合にかかわってきましたが、単純な合併ですと相当な時間とコストがかかりますので、今回の共同持株会社方式は非常にスマートな方法だと思います。今後、同じ志を持つ会社が出てきた場合も、スムーズにグループに迎えることができるのではないのでしょうか。

**阿部**：私もそう思います。もしTOBという方法を採用していたら、数百億規模の資金を費やすことにもなりかねませんでしたが、今回はその分の資金を次のM&A<sup>※3</sup>や技術開発、設備投資に回すことができますので、その意味でも最良の選択であったと思っています。

**松岡**：産業廃棄物には、我々が取り扱うような金属や家電、建設系廃材以外にも、汚染土壌や廃液などさまざまな分野がありま

す。規模のスケールアップとともに取り扱い分野を広げる意味でも、両社が核となってスタートし、静脈産業界を引っ張っている存在になれば、と思っています。

## 共同持株会社の名前は「TREホールディングス株式会社」に決定

**阿部**：共同持株会社の社名も、この対談の直前に「TREホールディングス株式会社」に決まりました。「私たちは、地球環境の保全(Earth, Ecology)のために、新たな技術開発(Technology)、リサイクル深化(Recycling)、エネルギー事業推進(Renewable Energy)に挑戦する(Try)」という、新グループとして目指すものを象徴した言葉をうまく組み合わせ、非常にいい社名ではないかと思っていますが、松岡社長はいかがですか？

**松岡**：そうですね。私は、社名の発案や決定を外部に委ねるのではなく、社員が考えたことにも意味があったと思っています。両社で1000名を超える投票があり、非常に接戦ですごく盛り上がりましたね。

**阿部**：社員の総意で決めようというのは、松岡社長の発案でした

※2: TOB(Take Over Bid)  
株式公開買付のこと。

※3: M&A(Mergers and Acquisitions)  
企業の合併や買収を意味する略語で、2つ以上の会社が1つになったり(Mergers)、ある会社がほかの会社を買ったりすること(Acquisitions)。

ね。その方が「自分たちで新しい会社をつくるという意識づけになる」とおっしゃるので、私もすぐに同意しました。タケエイグループとリバーグループどちらの社員も本当に熱心に考え、知恵を絞ってくれました。

**松岡**：ええ。社員一人ひとりが胸に秘めている「新しい会社」への期待がそのまま社名になったわけですから、社員が自分たちで決めた社名であることが、重要な意味を持ちます。

## 統合のシナジー効果を発揮して、 循環型社会の実現に貢献する

### 静脈産業の将来性について社会の期待を さらに高めていく

**阿部**：長期的な戦略として企業規模のスケールアップを図っていくことももちろんですが、短期的にはやはり2社の統合シナジーを速やかに発揮しなければなりません。循環型社会と脱炭素社会の実現という目標に向けて、いかに速やかにシナジーを発揮していくか、それが統合直後の課題ではないでしょうか。

**松岡**：そのとおりですね。循環型社会の実現という側面では、ヨーロッパではすでにサーキュラーエコノミーが常態化してきていますが、日本はやや乗り遅れた感があります。例えば自動車をEUに輸出する場合、現状ではEUの環境基準に合わせざるを得ないのが現状です。しかし、最近では国内でもサーキュラーエコノミーに則った基準にしていこうという動きが加速化してきています。その流れもあり経済産業省が「循環経済ビジョン2020」をまとめたわけですが、この経済産業省は、そもそも動脈産業を中心に主管す



る官庁と言われております。我々静脈産業は、どちらかという環境省に近いわけですが、動脈産業を主管している官庁がこうしたビジョンを打ち出したことは、今までの感覚では相当異例なことだと思います。

**阿部**：これまでは、メーカーなどの動脈企業が生産活動をして、その結果排出された廃棄物を静脈産業である我々が適正に処理もしくはリサイクルするという一方向の関係性でした。しかし循環型社会を志向するのであれば、逆に静脈側から動脈側に対して「リサイクルを前提としたものづくり」を働きかけないと、もはや地球環境の改善にはつながっていかないわけですね。静脈から動脈へ働きかけることによって循環をさせていく、そこに統合シナジーを活かすことができればベストですが……。

**松岡**：まさに静脈から動脈への働きかけが大事です。「循環経済ビジョン2020」の大半は、動脈系企業に対してリニアエコノミーからサーキュラーエコノミーへの転換を促す提言ですね。私は、ようやく国と行政が腰を上げて、動脈産業側に対して動静脈連携をうまく回すように言い出したととらえています。一方では、既に自動車メーカーや家電メーカーの一部で、使用後の廃棄や解体時のことを考えた開発設計をする動きも出てきています。

**阿部**：リバーグループは、今でも動脈産業と近い関係にあるわけですから、統合によるスケールアップとシナジー効果で、さらに働きかけやすい環境が実現することを期待しています。

**松岡**：「循環経済ビジョン2020」では、循環経済への転換には市場や社会から適正に評価されることが重要であるとも指摘しています。我々静脈系の企業は、1社ごとの規模が小さいこともあり、認知度はまだまだ低い。IRを含めステークホルダーの皆さまと積極的にコミュニケーションをとり、今回の経営統合を認知度向上の布石にすることが私たちに求められているのだらうと思っています。

**阿部**：ええ。確かにそれは私たちの責任で、静脈産業の将来性についてステークホルダーの期待をさらに高めていく必要があります。ただ、この事業は5年後や10年後に利益を100倍にできるビジネスでもないわけですね。もしそうであれば、それだけの環境負荷が社会にかかっているという話になります。私たちとしては、適正な利益を上げながら地球環境を守っていきたいわけですから、将来性については社会課題解決型の企業であるという点を、もっとアピールしていく必要があるかもしれません。



**松岡**：話は変わりますが、動静脈連携において、私たちの側から動脈産業に果たすべき責任は、質の良い再生材を安定的に供給していくことに尽きると考えています。動脈産業から「質の良い再生材」と評価されるためには、廃棄物となる前の由来がしっかりしたのから再生材をつくり出す必要があります。元がどのようなだったかというトレーサビリティがしっかりしていれば、再生材でも使いやすいということですね。

**阿部**：質という意味では、これまで以上にしっかり分別することも重要です。例えばタケエイの場合、建設系廃棄物の中に石膏ボードがあり、それをリサイクルしてメーカーに買っていただける形で戻すわけですが、石膏ボードの中には素材として紙も入っているので、紙は紙でしっかり分別して製紙メーカーに買っていただく、またタイルカーペット<sup>※4</sup>などでも、これまで裏側の塩ビ部分は焼却処分していたわけですが、しっかり分別することで、メーカーも納得できる質の再生材として生まれ変わっています。

**松岡**：「循環経済ビジョン2020」では、もう一つ「レジリエント<sup>※5</sup>な循環システムの早期構築」も課題として挙げていますが、これは静脈産業側からしたら当たり前の話です。ただ動脈側では、まだ当たり前ではない状況にあるので、そういう提言がされている。動脈側の意識改革が急がれているということだろうと思います。ただ、一部のメーカーはもう素材や解体のことまで考えているので、我々静脈側と認識が一致してきている気がします。

**阿部**：それと、循環型経済にはそれなりのコストが掛かりますので、そのコストをどこが負担するのかをはっきりさせないとイケません。サーキュラーエコノミーへの転換は不可欠ですが、コストが増えることも事実です。例えば環境税という形で国民が広く負担するのか、メーカーなどの排出事業者が負担するのか、あるいは再生した資源を使うことを義務づけて、その中でコスト負担をしていくのか。コスト負担の仕組みをしっかりと構築する必要があると思っています。

## 気候変動問題に静脈産業が果たしていくべき役割

### 脱炭素社会の実現のためバイオマス発電事業を推進

**阿部**：気候変動対策における直近のトレンドは「脱炭素」で、脱炭素社会の実現には再生可能エネルギーの使用比率を高めること



が必須です。タケエイのバイオマス発電は、新グループ全体で使用する電力量以上の発電をすでに行っています。さらに排出権取引のクレジット化が可能な電源も持っていますので、統合の5年後をめどにTREグループとして排出するCO<sub>2</sub>をすべてオフセットすることを目標にしています。

**松岡**：そもそも私たち静脈産業は、事業そのものが脱炭素に留まらず環境全体を良くするものであるという考えなので、他社のようにあえて「脱炭素」と言うまでもなく、事業がそのまま脱炭素につながるのだという理解を広げていくべきではないでしょうか。

**阿部**：本当にそう思います。例えばバイオマス発電については、再生可能エネルギーをつくるというだけに留まらず、そこから一歩踏み込んで、間伐材の活用のみではなく植林や育苗を進めることによって、樹木によるCO<sub>2</sub>の直接吸収で大気中のCO<sub>2</sub>を削減することも視野に入れていきます。

ほかにも、例えば廃棄物を処理する過程で水素を取り出す、あるいは下水道の汚泥の処理をする過程で化学反応を起こし水素を取り出すことも技術的には難しい話ではありませんから、バイオマスと水素という2つのアプローチで脱炭素に貢献することが可能で、今まで以上に環境負荷削減につながる処理の開発にトライしていきたいですね。

バイオマス発電は、脱炭素だけでなくさまざまな副次効果もあります。日本の森林を見渡してみると、燃料にすらできない根腐れしてしまった木や、枝打ちも下草刈りもしていない状態で、山の中に日光がまったく当たらない場所が散見されます。その状況では、本来そこに生息しているはずの動物もいませんし、山を流れる水も清流ではありません。しかも、大雨が降れば流木が発生して下流に災害をもたらす可能性もあります。そこで、山に放置されてしまった切り株や木くずなども買い取って、燃料にする動きを加速

※4：タイルカーペット

オフィスなどの床に敷き詰めて使われるパネル状のカーペット。表面の繊維層とポリ塩化ビニル層が強固に接着されており、処理する際に剥がしにくくリサイクルが難しいといった課題があった。

※5：レジリエント

元は「弾性(しなやかさ)」「回復力」などを意味する英単語。想定外の事態等に対して社会・組織等がその機能を速やかに回復できるような強靱さ、という意味で主に環境・防災分野で使われる言葉。

しています。これを進めていけば、私たちがかかわった山もかなりきれいになっていくと思います。森の中にも日が差し、水も澄み渡って、災害を起こしかねない流木になりそうな木も少なくなります。山の水がきれいになれば、その水が流れつく海もきれいになる。そういう自然の循環も行われますから、これからもバイオマス発電とその熱利用の拡大に取り組んでいきたいと思っています。

## 統合後の事業拡大のため、 お互いの得意分野に期待すること

### 扱う廃棄物が異なるからこそ、 相互に補完機能が発揮できる

**松岡**：リバーグループは、主に金属リサイクルを手掛けているため、シュレッダーで破砕した後にダストと呼ぶ「処理後残渣物」が出ます。年間約10万トンですから、日本全国の1割弱のダストを当社だけで出している計算です。これまでは、最終処分場等で処理するしかありませんでしたが、ダスト処理はタケエイの得意とするところだと伺っていますので、この点の統合シナジーには大いに期待しています。

**阿部**：同じように、タケエイでは建築廃材として出た鉄スクラップが目前にあっても、自社で処理できず専門業者をお願いしているという課題があります。これは、お客さまからしてみれば、廃棄物の処理全般をタケエイに頼んだつもりなのに、一部は別の業者に頼んでいるという二度手間に感じるかもしれません。金属リサイクルを得意とされているリバーグループとの統合で、今後はあらゆる建築廃材の処理をワンストップで提案できるので、お客さ



まの利便性が高まると期待しています。

あと、リバーグループは、当社の発電事業の燃料になる廃プラスチックをたくさんお持ちでしたね。

**松岡**：はい。当社の処理過程で大量に出る廃プラスチックをRPF<sup>※6</sup>に加工することで発電事業の燃料として活用できるのではないかと考えています。そういう意味でも非常に有益な補完関係が築けるといことですね。

**阿部**：おっしゃるとおりです。脱炭素社会への貢献として、今後はバイオマス発電だけでなく廃棄物発電の方へもっと踏み込んでいきたいと考えています。廃プラスチックのRPF化による廃棄物発電は、マテリアルリサイクルとして循環経済に乗せられない廃プラスチックもサーマルでエネルギー回収できますので、脱炭素だけでなく海洋プラスチック問題の解決にも貢献できると考えています。

### これまでは断念を余儀なくされた技術の ビジネス化を図っていく

**松岡**：私は、そのようなお互いに困っていた廃棄物の有効利用のほかに、技術の相互補完というシナジーにも大いに期待しています。

**阿部**：確かに。開発段階では技術的に可能なことでも、実際にそれをビジネス化するとすると、採算性などの問題で断念せざるを得ない新技术をたくさん見聞きしてきました。統合によって両社の力を結集できるようになりますから、これまでは断念を余儀なくされた技術をビジネス化が可能なレベルまでに高めていければと思います。

**松岡**：例えば、リバーグループは金属リサイクルを中心にやってきたので、ダストに含まれている廃プラスチック選別の知見があまりなかったものですから、廃プラスチックの選別やリサイクル技術に対して投資し、選別をさらに強化することに注力しています。また、再生材として選別できなかった廃プラスチックはダストとして処分していますが、タケエイと一緒にすることによって、これをRPF原料として再生できるのは大きなシナジー効果と言えます。

**阿部**：私どもとしても、教えを請いたいことがたくさんあります。リバーグループは家電・自動車の処理や、廃棄物から金属を取り出す技術をお持ちですね。ビルの解体現場では所有者不明の廃家電が放置されているケースもあり、その処理には本当に手間がかかっていました。それを今後、自社グループ内で適正に処理できるようにできれば、とても意味のあることだと思います。

※6：RPF(Refuse derived paper and plastics densified Fuel)

産業系廃棄物の中でマテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料。

## TREグループが目指すもの

### 目指す未来から遡って成長戦略を描いていく

**松岡**：TREグループとしての成長戦略ですが、私は、循環型経済の実現にいかに関与できるかに尽きると思っています。そのゴールに至るまでの道のりは複数あると思いますが、目指すゴールは明確です。ですから、循環型経済が実現した未来を描いて、そこから遡って検討することが、具体的な成長戦略の策定作業になるだろうと思っています。

**阿部**：それもおっしゃるとおりですね。足元の状況では、世界中が新型コロナウイルスという不確定要素によるマイナスの影響を受けていて、目下最大の社会課題であるわけですが、中長期的には環境問題の方が全地球的に及ぼす影響ははるかに大きく、解決を図っていくべき課題であることは間違いありません。その中でTREグループがどのような役割を果たしていくかについてコミットしていきたいと思えます。

**松岡**：例えば脱炭素は、金属リサイクルの分野にも大きな事業環境の変化を起こしつつあります。一般的な製鉄業では高炉製法が主流で、相当量のCO<sub>2</sub>を排出します。製鉄業も2050年に脱炭素化する目標に向かって取り組みを進めていますので、大きな変革が起こってきます。鉄スクラップは電炉メーカーで多く使用されていますが、CO<sub>2</sub>排出量は高炉製法の4分の1と言われております。抜本的には高炉メーカーは水素還元法に置き換えて技術革新が進んでいくと思いますが、その補完的な機能として、相当量の鉄スクラップを使用していくだろうと見ています。

その影響でスクラップ鉄の需要が高まり、すでに先読みとして中国などで価格が高騰し始めています。今後の価格の変動は、好不況だけでなく、環境問題に絡んだ将来的な構造の変化を織り込まなくてはならないだろうと思えます。

**阿部**：脱炭素が今後のビジネスの在り方を変えていくということは、私も常に意識していました。私たちがお客さまから要求されているのは、建築物の解体現場で出た廃棄物からRPFをつくり、そのRPFから発電した電気を現場に還元して欲しいということです。なぜなら廃棄物をただ焼却処理するだけではなく、現場で使われている電力の燃料になっているという、地域住民や自治体などに対し「脱炭素に貢献している」という付加価値を付けられるからです。

**松岡**：そうした環境課題の解決を起点としたビジネススタイルの変化に対応していくことも、TREグループの成長戦略に欠かせな



い要素だと考えています。

**阿部**：一方で「この方法で処理すれば環境負荷をもっと減らせます」「でもコストはかかります」というケースもあります。これを株主や投資家目線で考えれば「法的に認められているのであれば、そんなにコストをかける必要はない」「もっと利益を優先してほしい」という声が出てくるのも当然です。地域社会やステークホルダーの理解を得ながら、いかに環境負荷を減らす形で利益を上げていくかが大事で、ステークホルダー間に存在するトレードオフの関係にバランスよく対応していく必要があるだろうと思っています。

## ステークホルダーの皆さまへお伝えしたいこと

**阿部**：「サーキュラーエコノミーの常態化」という新たな時代がようやく日本にも訪れつつあります。そのためには総合環境企業として業界の牽引役を担う存在が必要で、それを私たち2社の経営統合によって創り上げるのだということを、広く皆さまに認識していただけるようにしたいですね。

**松岡**：もちろんです。今回の経営統合は、お互いに大きな責任を伴う決断だったわけですから、それだけに、これが静脈産業にとってひとつの大きな転機になるようにしたいですし、我々の業界は今そうした大転換期にあるのだということ、そして持続可能な社会実現の先端にいるのだということ、改めてステークホルダーの皆さまと両社の社員へお伝えしたいと思います。

**阿部**：「循環型社会に貢献する」という理念が口先だけではなく、社会に対して目に見える形に実体化した、それが今回の経営統合だと確信しています。ステークホルダーの皆さまには、ぜひ、今後TREグループが目指す未来と、そこに至るまでの歩みを見届けたいと思います。



# タケエイグループの価値向上プロセス

タケエイグループは、廃棄物処理における総合的なソリューションサービスの提供や、地産地消型の木質バイオマス発電事業を通じて、社会課題の解決に取り組んでいます。2020年5月には「(株)タケエイ林業<sup>※1</sup>」や「(一財)タケエイSDGs推進財団<sup>※2</sup>」を設立するなど、地域社会との協同も含め、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

## 社会課題

- 廃棄物の循環利用に対するニーズの高まり
- 都市の再構築に伴う廃棄物の増加
- 廃棄物処理法の強化
- クリーンエネルギーへの需要の増加
- 地球温暖化対策への関心の高まり
- COVID-19 新型コロナウイルス感染症

## タケエイグループの事業



## 投入資本

### 人的・知的資本

従業員数 **624人**(タケエイ単体)  
**1,358人**(グループ全体)

### 社会・関係資本

事業拠点数 **42**拠点  
産業廃棄物収集  
運搬可能エリア **23**都府県

### 製造資本

設備投資額 **7,907**百万円

### 財務資本

自己資本 **34,505**百万円

### 自然資本

環境マネジメントシステム  
認証取得済みグループ会社数 **9**社

※1 同社は、木質バイオマス発電に必要な発電用燃料材の安定確保に向けて設立されました。  
※2 同財団は、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成への寄与を目的として設立されました。詳細はP.24をご覧ください。

1970

1980

1990

2000

産業廃棄物業界を  
取り巻く状況

### 1970 廃棄物処理法制定

- 高度経済成長に伴う建設ブームによる廃棄物の増加
- 公害問題の深刻化

### 1991 廃棄物処理法改正

- 適正処理を求める社会ニーズの高まり
- さらなる規制の強化

### 2000 循環型社会形成推進基本法制定

- 循環型社会構築に向けたリサイクルの推進が新たなテーマに

1967

創業

廃棄物分野に  
おける事業展開

1984~1992

- 廃棄物の増加や多様化に伴い、適正処理を求める社会ニーズの高まりを背景に、1991年に廃棄物処理法が改正されました。
- タケエイグループはこの廃棄物処理法改正に先駆け、創業者がダンブ1台から始めた収集運搬について強化を図りました。さらに千葉県成田市および千葉市に安定型最終処分場が、神奈川県横浜市、神奈川県川崎市および千葉県四街道市に中間処理工場が完成し、収集運搬・中間処理・最終処分までの一貫体制を確立しました。

2000~2006

- 循環型社会形成推進基本法の制定により、リサイクル(資源循環)による環境負荷低減を目指す枠組みができました。
- タケエイグループでは、当時最新の設備を導入した(株)リサイクル・ピア東京エコタウン工場\*および24時間365日受け入れ可能な(株)タケエイ川崎リサイクルセンターが完成し、リサイクル製品の品質とリサイクル率の向上を実現しました。

2004

- 廃棄物処理業・リサイクル事業を手掛ける10社とともに、バイオマス発電用燃料を供給する新エネルギー供給(株)を設立。また、廃棄物発電を行う(株)市原ニューエナジーへの出資を通じ、廃棄物を活用するエネルギー事業に参入しました。

\*現在の(株)タケエイ東京リサイクルセンター

売上高  
42,062 百万円

営業利益  
4,067 百万円

アウトプット  
2021.3期  
(直前期実績)連結ベース

営業利益率  
9.7%

親会社株主に  
帰属する  
当期純利益  
2,272 百万円

お客さま

- さまざまなニーズを解決

地域社会

- 地域課題の解決
- 安全な生活環境の確保

株主・  
金融機関

- 経営の安定
- 成長と利益の還元

ステークホルダー  
● アウトカム

行政機関

- 官民連携による  
地域社会への貢献

従業員

- 安全で働きやすく  
働きがいのある環境の提供

総合環境企業

2010

2020

2011 東日本大震災の発生  
● 東日本大震災に伴うエネルギー危機  
● 持続可能な社会の形成に向けた意識のさらなる高まり

2015 廃棄物処理法・災害対策基本法の改正  
● 災害廃棄物の適切かつ迅速な処理に関する対策の強化

2011～2016  
● 2011年3月に発生した東日本大震災では、千葉県旭市、岩手県釜石市、岩手県大槌町、宮城県亘理町、福島県楢葉町において、現地での災害廃棄物の処理に携わるとともに、(株)リサイクル・ピア東京エコタウン工場において、広域処理の一部としての災害廃棄物受け入れを行いました。  
● また、特定の品目に特化したリサイクル工場を充実させることで、さらなる循環型社会への貢献を実現しました。

2017～  
● 福島県内における可燃性除染廃棄物等の収集運搬業務等に継続して携わり、地域の復興へ協力しています。  
● 2019年秋に発生した台風および大雨に伴う災害廃棄物処理に携わりました。  
● 社会問題として深刻化している廃プラスチック等のリサイクルに対応するため、廃プラスチックの製品化の取り組み強化を開始しました。

2021～  
● リバーホールディングス(株)との共同持株会社設立による経営統合を発表しました。循環型社会の実現に向け、リサイクルの高度化を目指します。

2008～2016  
● 環境保全(株)および(株)アースアプレイザルがタケエイグループに加わり、廃棄物発生段階でのコンサルティング・事前調査・環境分析等が可能になりました。  
● 富士車輛(株)の子会社化により、設備や車両の開発・製造といったハード面での機能が加わり、事業の効率化が実現しました。  
● 2013年に森林資源の保全や地域経済の活性化等につながるバイオマス発電事業に参入し、さらに2014年には最終処分場跡地を活用した太陽光発電施設が完成しました。

2019～  
● 2019年に都市型バイオマス発電を行う(株)タケエイグリーンリサイクル横須賀バイオマス発電所が稼働を開始、さらに2020年の市原グリーン電力(株)の子会社化により、関東から東北地方を中心に計6か所のバイオマス発電所を稼働しています。  
2021～  
● (株)タケエイ林業にて岩手県花巻市内に山林を取得しました。今後は育苗や伐採後の植林・再造林にも取り組み、さらなる再生可能エネルギー事業の推進に取り組んでいきます。

# タケエイグループの事業概要

## 廃棄物処理・リサイクル事業

当社の廃棄物処理・リサイクル事業は、次の3つの事業で構成されています。

### 建設系廃棄物処理・リサイクル

建設工事や解体工事等の現場から排出された廃棄物を収集・運搬し、リサイクル工場へ搬入された廃棄物の選別や異物除去、破砕や圧縮等の中間処理を行います。

### マテリアルリサイクル

特定の品目の廃棄物を、その品目に特化したリサイクル工場で処理することで、再資源化の品質と効率性を高めています。

### ランドフィル

中間処理後に発生した残渣等の埋立処分を行います。また、埋立完了後の跡地利用も行っています。

強み

国内最大規模の  
リサイクル施設

長年の知見による  
廃棄物の適正処理・  
再資源化のノウハウ

自然災害・  
特殊案件等への  
対応力



(株)タケエイ川崎リサイクルセンター

(株)タケエイ川崎リサイクルセンターでは、混合廃棄物に含まれる紙くずや廃プラスチック類から固形燃料[RPF]を製造し、発電やサーマルリサイクル燃料として再利用しています。今後は製造業としての機能にも強化し、資源循環型社会へ貢献していきます。



(株)タケエイ東京リサイクルセンター

廃棄物に大量に含まれている塵(ダスト)を活用した製鉄副資材「エコ・フォーム」の製造に取り組んでいます。2020年9月には、従来1台であった成型機を増設し、生産能力を2倍に増強しました。製造したエコ・フォームは大手鉄鋼業者各社に出荷しています。



## 環境コンサルティング事業

### 処理の提案、コンサルティング、調査・分析

計量証明業務、環境対策工事および有害廃棄物等の調査・分析業務を行っています。

強み

豊富な  
分析メニュー  
の保有

グループ連携による  
専門領域の展開



環境保全(株)

(株)タケエイ川崎リサイクルセンター内に分析室を設置し、中間処理後の廃棄物の成分分析等を行っています。分析結果を迅速にフィードバックし、リサイクルセンターと連携した処理後物の品質改善に努めています。





## 再生可能エネルギー事業

### 木質バイオマス発電事業

間伐材や剪定枝等の未利用材を燃料とする木質バイオマス発電、発電用燃料の製造等を行っています。



(株)花巻バイオマスエナジー

当社グループの発電施設では発電時に発生する余熱利用を行っており、(株)花巻バイオマスエナジーでは菌床キクラゲを栽培し、地元の食品加工業者へ卸しています。



市原グリーン電力(株)

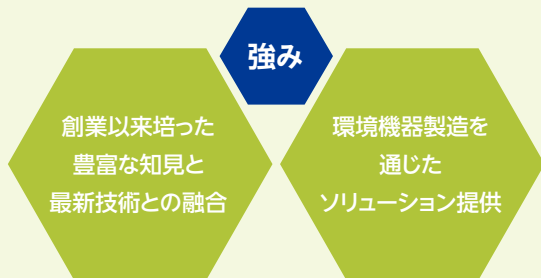
2020年4月に、発電施設を保有する市原グリーン電力(株)を子会社化、ならびに燃料保管・供給を行う循環資源(株)を持分法適用会社化したことで、燃料の調達から発電までを一気通貫で担うことが可能となりました。



## 環境エンジニアリング事業

### 環境機器・車両の開発

環境装置やプラント、特装車両の開発・製造・販売を行っています。



富士車輛(株)

同社が開発した「キューティック」は、木質チップの製造・運搬を1台で行うことができる特殊車両です。小回りがきくため、効率面で運搬対象とならなかった剪定枝や放置竹林といった未利用材も燃料として活用することが可能になりました。



# 財務ハイライト

## 財務パフォーマンス(連結)

		第41期 2017年3月	第42期 2018年3月	第43期 2019年3月	第44期 2020年3月	第45期 2021年3月
売上高	(百万円)	27,973	31,084	32,271	37,713	42,062
営業利益	(百万円)	2,400	2,402	2,125	3,298	4,067
経常利益	(百万円)	2,275	2,292	1,814	3,025	3,893
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	1,245	1,356	275	1,765	2,272
包括利益	(百万円)	1,370	1,459	318	1,813	2,438
純資産額	(百万円)	26,917	27,791	26,960	28,270	34,505
総資産額	(百万円)	61,248	67,141	71,047	80,257	87,806
1株当たり純資産額	(円)	1,113.12	1,152.27	1,131.93	1,186.86	1,196.98
1株当たり当期純利益	(円)	52.37	57.72	11.92	76.65	89.07
自己資本比率	(%)	42.9	40.1	36.7	34.1	37.6
自己資本利益率	(%)	4.8	5.1	1.0	6.6	7.5
株価収益率	(倍)	20.0	22.5	61.5	10.2	14.5
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	3,710	4,439	2,916	5,354	7,401
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△10,795	△7,003	△7,899	△7,963	△13,607
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	8,443	4,097	1,243	4,714	5,458
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	11,128	12,661	8,922	11,028	10,282
従業員数	(名)	1,230	1,288	1,277	1,304	1,358

## セグメント売上高および利益(連結)

(単位:百万円)

		第42期 2018年3月	第43期 2019年3月	第44期 2020年3月	第45期 2021年3月
■ 廃棄物処理・リサイクル事業	セグメント売上高	22,153	22,991	24,905	24,738
	セグメント利益	1,783	1,661	2,719	3,468
■ 再生可能エネルギー事業	セグメント売上高	2,843	3,345	6,412	11,457
	セグメント利益	158	185	183	325
■ 環境エンジニアリング事業	セグメント売上高	5,571	5,128	5,679	5,599
	セグメント利益	338	100	219	227
■ 環境コンサルティング事業	セグメント売上高	1,195	1,422	1,297	1,228
	セグメント利益	178	165	148	122
合計	セグメント売上高	31,764	32,888	38,294	43,024
	セグメント利益	2,459	2,113	3,271	4,143

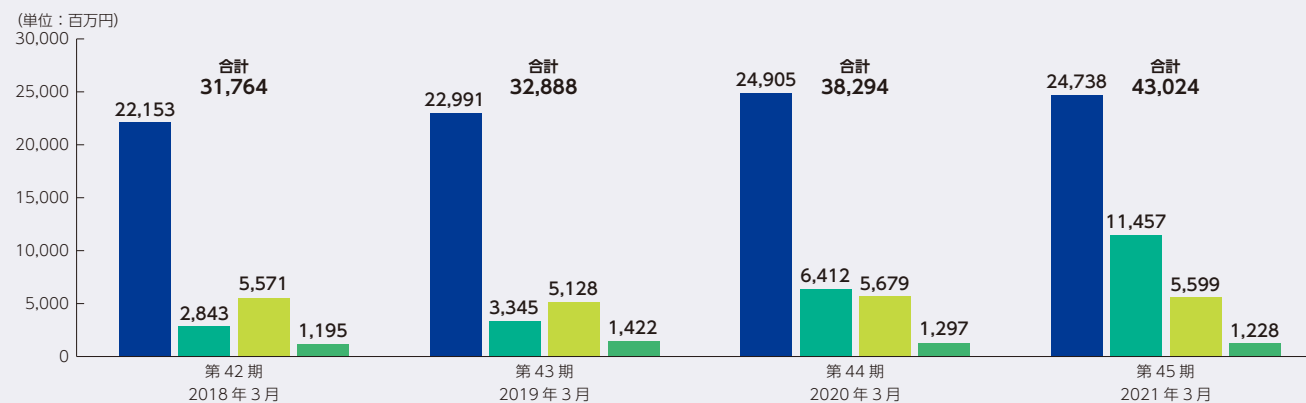
注記1)第41期については、事業会社別のセグメントで構成していましたが、42期より「廃棄物処理・リサイクル事業」、「再生可能エネルギー事業」、「環境エンジニアリング事業」、「環境コンサルティング事業」の4つを報告セグメントとしております。したがって41期は、非表示としております。

注記2)第44期より従来「廃棄物処理・リサイクル事業」に区分しておりました株式会社タケエグリーンリサイクルを「再生可能エネルギー事業」に区分変更しております。

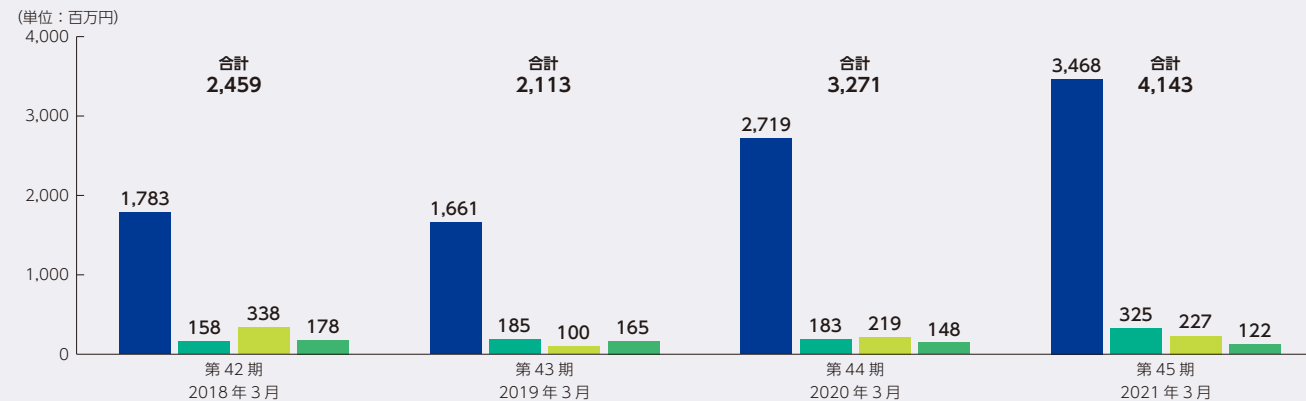
注記3)セグメント間取引については、相殺消去しております。

注記4)百万円未満は、切捨て表示しております。

### セグメント売上高



### セグメント利益

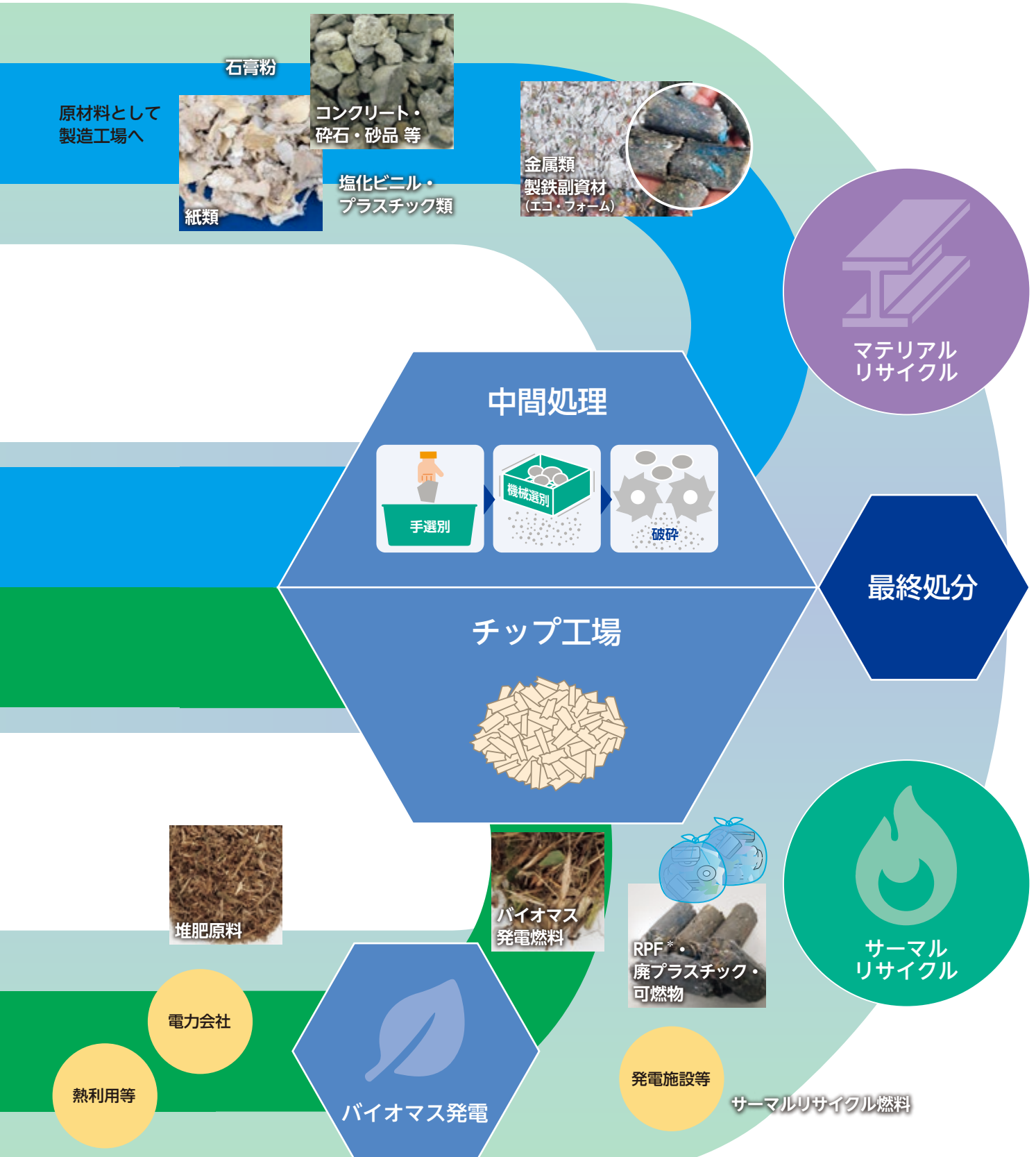




# 再資源化ソリューション

廃棄物が生まれ変わる! 持続可能な未来へ向けて 一廃棄物から製品へ





\*RPF… Refuse derived paper and plastics densified Fuelの略称であり、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料(出典:一般社団法人日本RPF工業会)

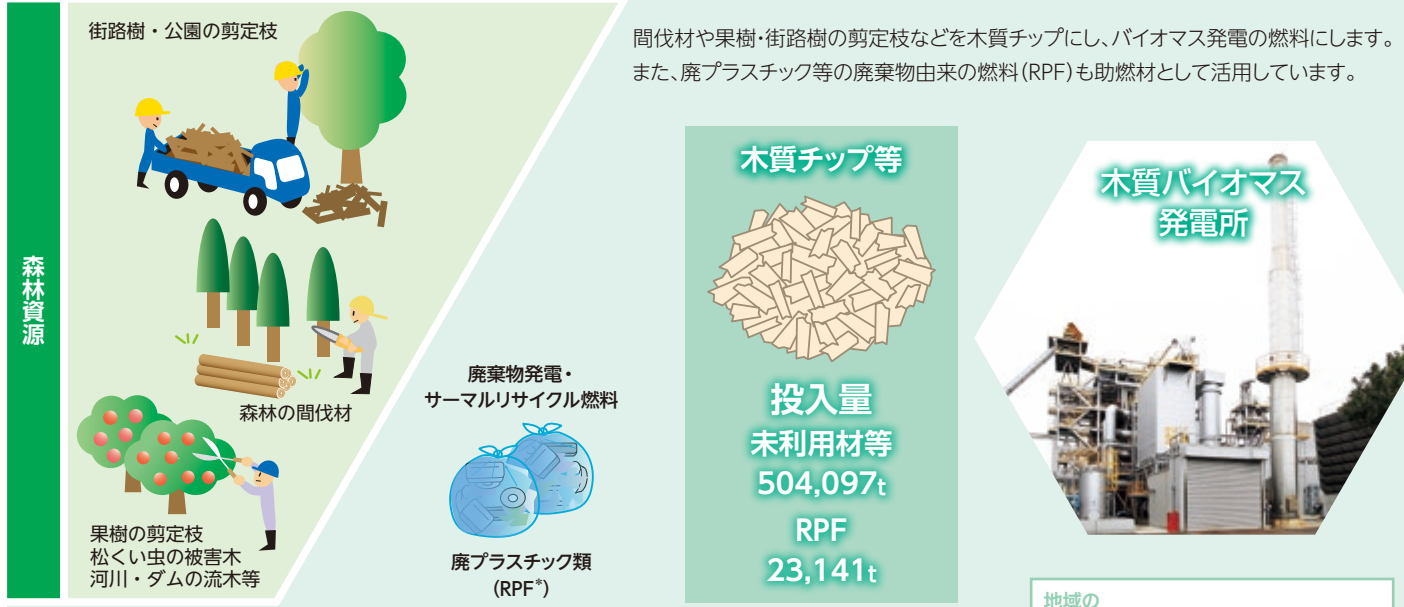
# 廃棄物が生まれ変わる! 持続可能な未来へ向けて 一廃棄物から製品へ

## 再資源化ソリューション



### 産業廃棄物処理・リサイクル事業

リサイクル工場に運ばれた産業廃棄物は、人の手や機械・重機で選別し、異物を取り除きます。その後、品目ごとにリサイクルに適した品質・ロットに整え、リサイクル品となります。



### 再生可能エネルギー事業

#### 地域の未利用材等の利用

- (株)津軽バイオマスエナジー
- (株)花巻バイオマスエナジー
- (株)大仙バイオマスエナジー
- (株)田村バイオマスエナジー

#### 首都圏および近郊の木質資源利用

- (株)タケエイグリーンリサイクル 横須賀バイオマス発電所
- 市原グリーン電力(株)





建設現場等



他社最終処分場

最終処分量  
(当社グループの  
リサイクル工場から発生)

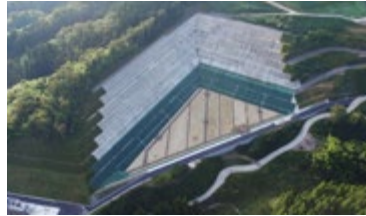
58,064t

リサイクル量  
570,557t

### タケエグループ最終処分場

最終処分量  
70,794t

再資源化に適さない廃棄物や残渣物は、最終処分場で埋立処分します。当社グループの最終処分場では、環境負荷を徹底的に排除した管理・運営を行っています。



リサイクル工場で処理されたものは、リサイクル品として製造工場(メーカー)へ運ばれ、建設資材や各種製品の原材料として利用されます。

### 熱の利用

発電量  
438,941MWh

### 電気の利用

高糖度トマト  
収穫量  
11.3t

キクラゲ  
収穫量  
611kg

農業

地元公共施設・  
一般家庭等  
(電力需要家)

売電量

約120,000世帯分\*

\*一般家庭300kWh/月として  
試算した場合

小売電気事業者

#### 小売電気事業者

- (株) 津軽あつぷるパワー
- (株) 花巻銀河パワー
- (株) 大仙こまちパワー
- (株) 横須賀アーバンウッドパワー
- (株) ふくしま未来パワー

### マテリアルリサイクル

### サーマルリサイクル

土木資材  
[再生砕石(RC-40、砂品等)]

生産量 325,721t



破砕機で一定のサイズに砕かれたコンクリートや、機械選別でサイズを揃えた砕石・砂品などは、路盤材や埋め戻し材として生まれ変わります。

鉄・非鉄原料

生産量 31,761t



鉄骨やパイプ等の金属は切断等の処理がされ、種類別に分けられます。製鉄メーカー等で原材料として利用され、再び鉄・非鉄製品となります。

石膏ボード原料、  
セメント系固化材原料

生産量 56,831t



石膏ボードは特殊な処理によって石膏粉と紙に分けられます。石膏粉は主に石膏ボードとして生まれ変わり、建材として使用されます。

製紙原料

生産量 5,302t



ダンボールや石膏ボードの紙の部分は圧縮処理され、製紙メーカーで原材料として利用され、再びダンボール等の紙製品となります。

再生プラスチック原料

生産量 4,951t



塩ビ管やタイルカーペット等の廃材は、破砕・圧縮などの処理が行われます。塩ビ管などのプラスチック製品の原材料や、燃料として利用されます。

製鉄副資材(エコ・フォーム)

生産量 3,309t



廃棄物処理の際に発生する粉塵(ダスト)は、ほかの廃棄物と混ぜて固め、エコ・フォームとなります。製鉄工程において転炉内の泡立ちを防止するための添加材(フォーミング抑制材)として利用されます。

堆肥原料等

バイオマス発電燃料

生産量 7,058t / 54,497t



破砕機で一定のサイズに砕かれた廃木材等は、発電用の燃料として利用されます。剪定枝などは破砕後に熟成・発酵させ、堆肥として使用されます。

セメント原料

セメント燃料

生産量 8,895t / 15,654t



廃プラスチックや可燃物・不燃物の中で品質基準を満たしたものは、破砕・圧縮等の処理が行われ、セメント製造工程の原料・燃料として利用されます。

廃棄物発電・  
サーマルリサイクル燃料

生産量 56,578t



混合廃棄物から機械で選別された可燃物(紙・廃プラスチック等)は、圧縮処理を行い、燃料として利用されます。

## 経営理念

### 資源循環型社会への貢献を目指す

総合環境企業として、自然との調和・地域住民との共生を基調とし、多様なニーズに対応したリサイクル技術の確立と施設の充実を推進することによって資源循環型社会へ貢献する。

<http://www.takeei.co.jp/takeei03.html>

## 経営ビジョン

### 環境関連事業の拡充

廃棄物の3R(Reduce 減らす/Reuse 再利用する/Recycle 再資源化する)および適正処理を推進するため廃棄物処理・リサイクル事業へ一層注力するとともに、環境保全に資するコンサルティング事業、エンジニアリング事業を拡充する。

### 再生可能エネルギー事業の拡充

地元産の燃料を使って生み出したクリーンなエネルギーを供給する発電・電力小売事業を核とし、自社で保有する森林の保全及び燃料チップの自己調達を目指す林業経営、発電に伴って生じる余熱の農林・水産関連事業等への応用などにより、再生可能エネルギー事業を拡充する。

### 環境保全を通じた社会貢献

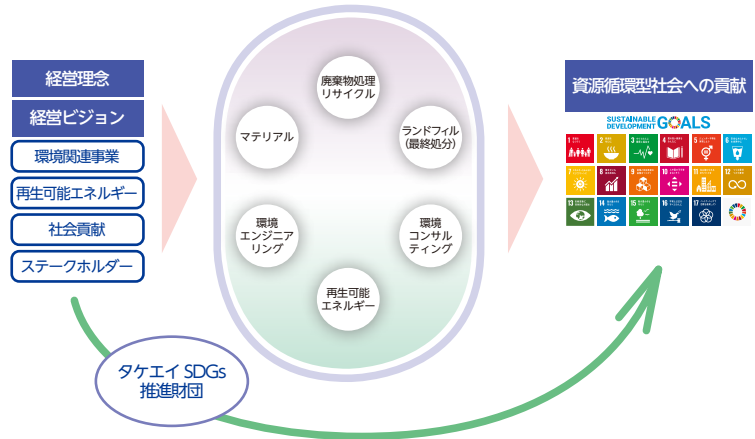
豊かな大地・森・海からなるOnly One Earth(かけがえのない地球)を守り次代に引き継ぐため、資源循環や気候変動などの社会課題の解決策を講じ、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に寄与する。

### ステークホルダーとの関係強化

「四方よし(売り手・買い手・世間・環境)」を目標とし、株主様・お客様・従業員はもちろん、近隣住民・地域社会や行政機関、金融機関など当社を取り巻く全てのステークホルダーとのコミュニケーションを促進し、バランスの取れた関係を強化する。

## CSR推進体制

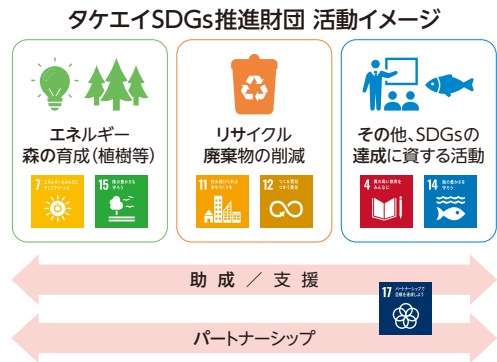
タケエイグループは、経営理念である「資源循環型社会への貢献を目指す」ことが当社グループのCSR活動の根幹であるととらえています。経営理念に基づいた環境関連事業経営・再生可能エネルギー事業経営を行うことで、CSR活動、ひいてはSDGsの達成につなげていきます。



## タケエイSDGs推進財団

当社グループの事業活動において環境負荷低減に寄与することで得た利益を財団の活動資金として拠出することによって、グループ一体となったCSR活動を推進していきます。

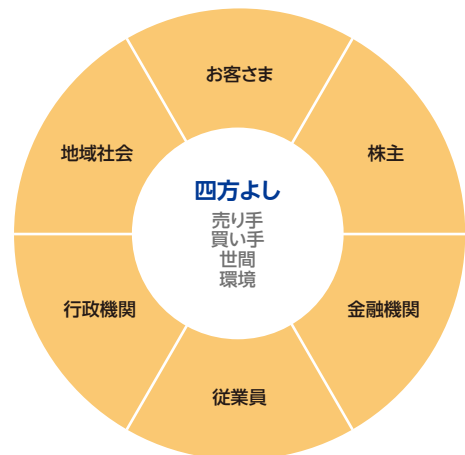
当面は、グループ各社の拠点における近隣の自治体、地域社会における環境保全活動や地域貢献活動を行います。



## ステークホルダーとのかかわり

タケエイグループの事業は、お客さま、株主、従業員、行政機関、金融機関および地域住民の方々等、多くのステークホルダーとのかかわりの中で成り立っています。

事業活動における法令遵守、雇用の創出、安全確保、環境保全、地域社会への貢献等、ステークホルダーの皆さまからの期待に応え、信頼関係を築くことが重要と考えています。今後もさまざまな形で対話を深め、その評価やご意見を経営に反映すべく取り組みを重ねていきます。





## コーポレート・ガバナンス

タケエイグループでは、社会から信頼される企業であり続けるために、健全で透明性のある経営体制を整備・運用するとともに、コーポレート・ガバナンスの充実とコンプライアンスの強化に取り組んでいます。

### ハイライト



### 基本的な考え方

タケエイグループで手掛ける事業は、お客さま、株主、従業員、金融機関、さらには事業所周辺の行政および地域住民の方々など、当社グループを取り巻くステークホルダーとの信頼関係のもとに成立するものにとらえています。

### コーポレート・ガバナンス体制

(株)タケエイは監査役会設置会社として株主総会のほかに、取締役会、監査役会、会計監査人を会社の機関として設置しています。

#### 取締役会

(株)タケエイの取締役会は社外取締役2名を含む8名の取締役で構成されており定例の取締役会を毎月1回、臨時の取締役会を必要に応じて開催し、取締役会規程に基づき経営に関する重要事項を審議・決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。

#### 経営諮問委員会

取締役会の任意の諮問機関として過半数が社外役員である経営諮問委員会を設置し、取締役候補者の選任や役員報酬の評価等について適切な関与と助言を受け、コーポレート・ガバナンス体制の充実を図っています。

#### リスク管理体制

(株)タケエイでは事業運営上のさまざまなリスクについての統轄部署として、CSR推進部を設置しています。CSR推進部ではISO内部監査、安全管理、与信管理などを行い、タケエイグループの運営に関する全社的・統括的なリスクの顕在化の未然防止、リスク要因の特定やその改善の推進を図っています。タケエイグループでは経営を取り巻くリスクに対し、的確な管理が可能となるように、取締役会直属のリスク管理委員会を設置しています。リスク管理委員会は四半期に一度委員会を開催し、リスク管理に関する取り組みの方針・方向性の検討、協議・承認を行っています。これにより事業の継続・安定的発展を確保していきます。

#### 情報セキュリティ委員会

IT技術の進化により高度にネットワーク化された現代において、情報の安全は経営上の重要な課題です。タケエイグループでは業務を行う上で接するお客さまや取引先、従業員などの個人情報情報の漏洩や情報資産の破損などを防止するため、情報セキュリティ基本方針に基づき、リスク管理委員会の下部組織として、情報セキュリティ委員会を設置しています。これからも情報セキュリティ対策の適切な実施と継続的改善を推進する体制を整え、情報セキュリティに関する事故や問題の発生状況について常に調査し、企業活動の発展を目指します。

### コンプライアンス委員会

タケエイグループでは社内横断的な視点からコンプライアンスを推進するため、リスク管理委員会の下部組織としてコンプライアンス委員会を設置し、法令違反行為の発生の有無を常に調査し、その発生を確認した場合には速やかにリスク管理委員会に報告するものとしています。また、従業員に対して法令遵守の必要性について継続的に周知を図るなど、グループ各社を含めた法令遵守の徹底に努めています。

### 内部通報制度

法令違反行為などコンプライアンス違反の早期発見と是正、予防を図るため、従業員がコンプライアンスに関する事項を連絡相談することのできる窓口「コンプライアンス・ヘルプライン(内部通報制度)」を設置し、電話やメールなどによる相談を受け付けています。

### 内部監査部署

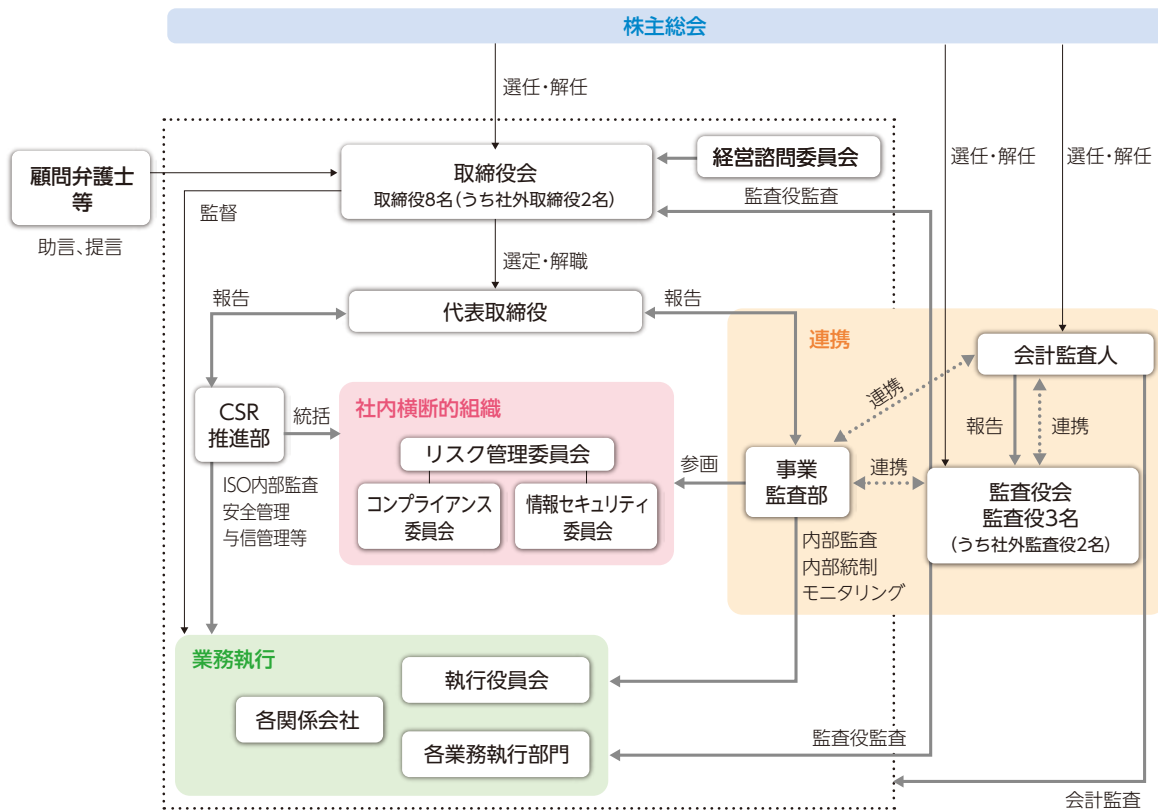
タケエイグループでは、内部監査部署として社長直轄組織である事業監査部を設けています。監査計画に基づき定期的に各部署、グループ各社に対し監査を実施し、内部統制システムが有効に機能していることを確認しています。

## ■ パワーハラスメント研修の実施

(株)タケエイでは、2021年1月にパワーハラスメントの防止を目的とした研修を実施しました。本研修は外部より講師として弁護士をお招きし、管理職を中心とする113名が参加、部下への注意・指導方法について学びました。(株)タケエイでは引き続きパワーハラスメントの未然防止に努めていきます。

### コーポレート・ガバナンス体制

2021年6月末現在



# 環境とのかかわり

タケエイグループでは、タケエイグループ環境基本方針に基づく環境活動を推進しています。また、グループ各社で環境目標を設定し、継続的な改善に向けて取り組みを進めています。

## ハイライト



## 環境基本方針

タケエイグループは、環境に携わる企業として、企業と社会がともに持続的成長が可能な未来を実現するべく、次の4つを活動テーマに掲げ積極的に取り組みます。

1. 資源循環型社会の実現に貢献します。
2. 低炭素社会の実現に貢献します。
3. 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。
4. 環境活動の推進体制を充実します。

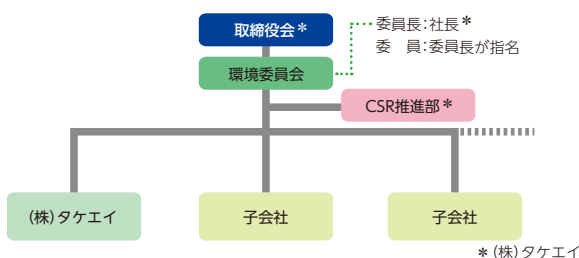
タケエイグループ環境基本方針は、ホームページで全文を公開しています。

<http://www.takeei.co.jp/environment01.html>

## 環境推進体制

タケエイグループでは、地球環境の保全に配慮した企業活動に取り組むため、環境推進体制を整備しています。具体的にはタケエイグループ全体で環境活動を推進するため、(株)タケエイの代表取締役社長を委員長として環境情報の共有や協議を行う場である「環境委員会」を設置しています。

### タケエイグループ環境推進体制



## 環境マネジメントシステムの運用

タケエイグループでは、環境マネジメントの国際規格であるISO14001や、環境省が策定したマネジメントシステムであるエコアクション21の認証を取得しています。

2020年に行われた(株)タケエイのISO14001における外部審査では不適合はなく、併せて受審した東京リサイクルセンターを認証範囲に含める拡大審査についても変更が認められました。

当社の事業に関連する法規制・条例等については、引き続き遵守を徹底するとともに、運用が適正に行われているかの確認を行ってまいります。

## 環境マネジメントシステム認証の取得状況

環境認証の種類	取得組織	取得(登録)年月
ISO14001	(株)タケエイ*1	2001年2月
	(株)北陸環境サービス*2	2004年7月
	(株)信州タケエイ	2001年12月
	富士車輛(株)*3	2001年3月
	(株)タケエイグリーンリサイクル*4	2007年6月
	イコールゼロ(株)	2001年3月
エコアクション21	(株)池田商店	2007年8月
	(株)タケエイメタル	2017年4月
	(株)ギプロ	2017年10月

\*1 産業廃棄物の収集運搬、積替保管、中間処理、最終処分及び管理業務

\*2 本社および平栗工場

\*3 本社、東京支店、大阪支店、東京営業所、名古屋営業所、福岡営業所

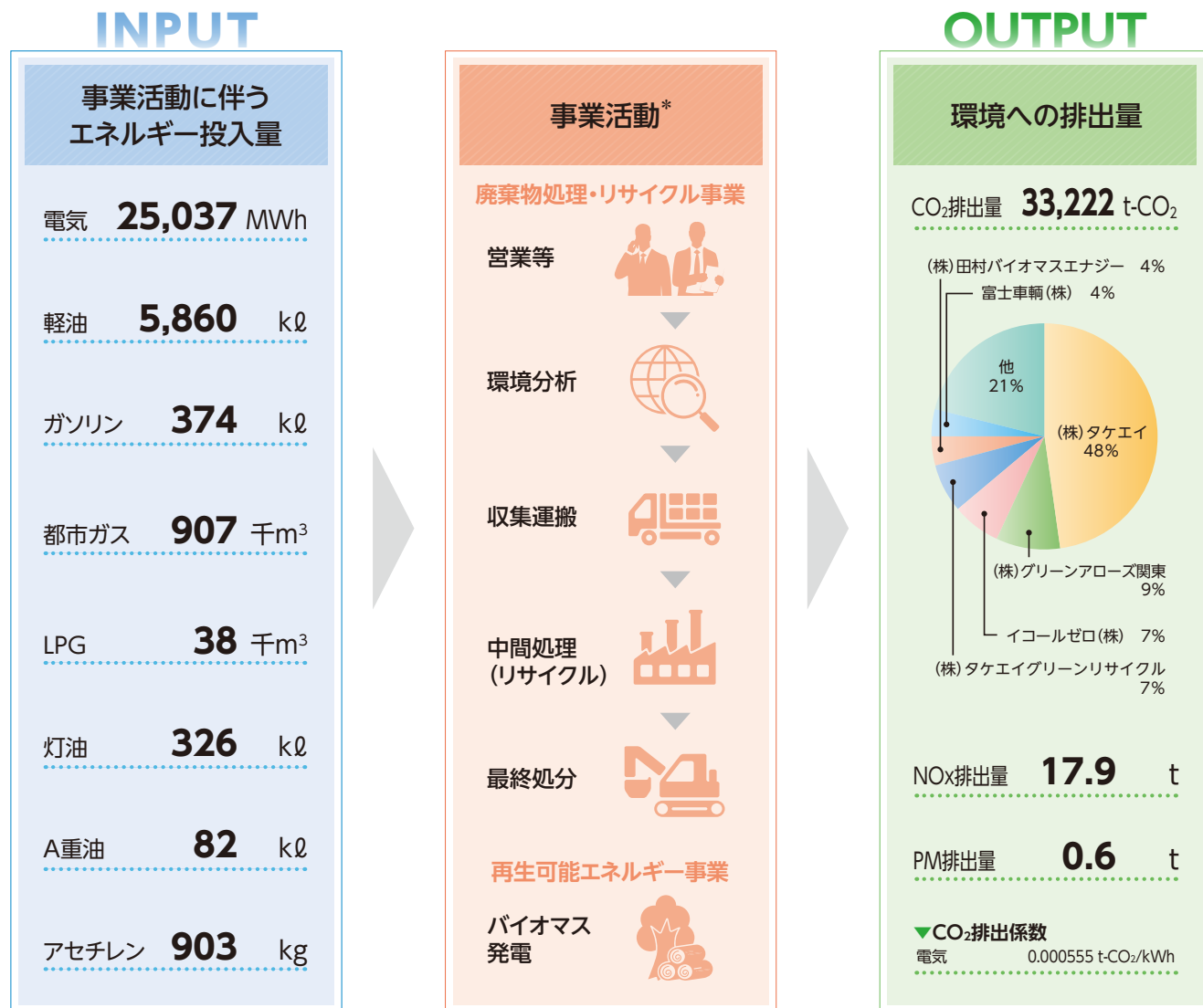
\*4 富士吉田工場、富士ヶ嶺事業所

## 環境目標

タケエイグループでは、環境基本方針に基づき、グループ各社が事業活動における環境目標を策定しています。この結果について年度末に分析・評価をし、次年度以降の活動の改善に活かしています。

# 事業活動に伴う環境負荷

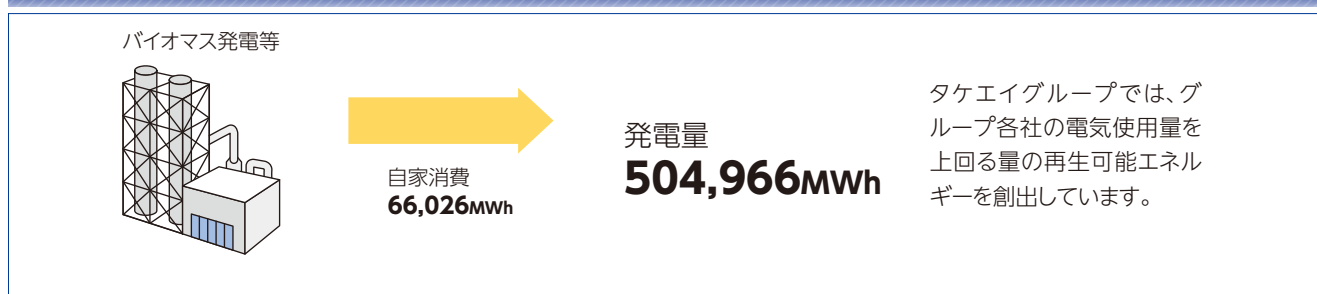
タケエイグループでは、廃棄物処理・リサイクル事業や再生可能エネルギー事業における、事業活動全体のエネルギー使用量および環境負荷を適切に把握し、環境負荷の低減に向けた取り組みに活かしています。



\*収集運搬・中間処理(リサイクル)・最終処分およびバイオマス発電の詳細については、P21~22をご覧ください。

環境のために

## 発電事業





# エコ・ファーストの取り組み

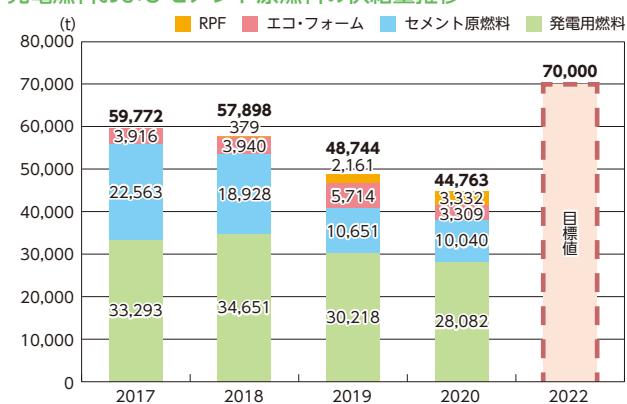
「エコ・ファースト」とは、自らの環境保全に関する取り組みを企業が環境大臣に約束し、それを受けて環境大臣が環境先進企業であることを認定する制度です。当社は2008年に認定され、業界における環境先進企業としての取り組みを推進してきました。

## エコ・ファーストの約束の達成状況

### 1 資源循環型社会の実現に貢献します。

タケエイグループにおけるリサイクル量 **570,557t**

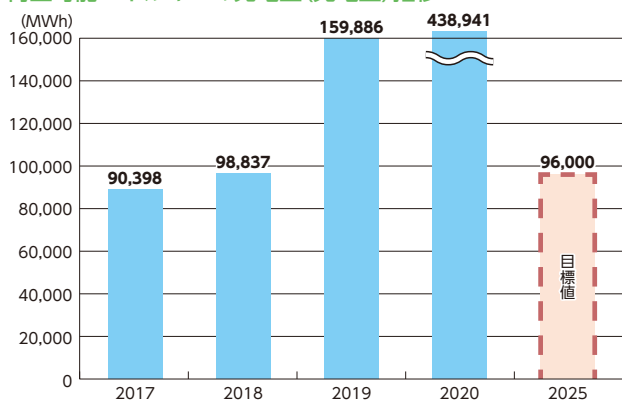
#### 発電燃料およびセメント原燃料の供給量推移



### 2 低炭素社会の実現に貢献します。

(株)タケエイにおける低公害車・低燃費車の保有台数  
**低公害車 265台 低燃費車 204台**

#### 再生可能エネルギーの発電量(売電量)推移



### 3 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

現在稼働中のバイオマス発電事業 **6か所**

タケエイグループにおける環境活動の実施状況  
**P35~36をご覧ください。**

タケエイグループにおける施設見学の実施件数  
**709件(延べ1,894名)**

## ECO FIRST エコ・ファーストの約束(更新書)

~環境先進企業としての地球環境保全の取り組み~

平成 29 年 10 月 31 日

環境大臣 中川 雅治 殿

株式会社タケエイ  
 代表取締役社長 山口 仁司

「総合環境企業」を目指すタケエイグループは、企業と社会がともに持続的成長が可能な未来を実現すべく、以下の取り組みを進めてまいります。

#### 1 資源循環型社会の実現に貢献します。

- タケエイグループは事業領域と事業地域を拡大することで、廃棄物の処理に関するお客様のさまざまな課題について、ソリューションサービスを提供していきます。
- 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック向け、「建設廃棄物処理・リサイクル事業」の対応力強化に努めます。特に、東京・神奈川・千葉における3つのリサイクルセンターを有機的かつ一体的に運用することで、都市の再構築で排出が見込まれる大量の建設廃棄物の域内処理およびリサイクルに貢献してまいります。
- グループ全体で廃棄物の資源循環の利用を推進することで、循環型社会の促進に貢献します。特に廃棄物発電を行っている施設およびセメントメーカー等へ、発電燃料やセメント原燃料等となる廃棄物を供給します。供給量について2022年までに2015年比30%増を目指します。

#### 2 低炭素社会の実現に貢献します。

- 現在タケエイグループで取り組んでいる再生可能エネルギー事業を今後さらに強化・拡大することで、温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制とエネルギー自給率の向上に寄与します。
- 再生可能エネルギー発電量について、2025年までに2015年比5倍増を目指すことで、低炭素社会の実現に貢献してまいります。
- 廃棄物を収集運搬する車両や工場で使用する重機を導入する際には、低燃費・低公害型の車両・重機を選定する取り組みを継続してまいります。また乗務員へのエコドライブの教育を徹底し、環境に優しい運転を継続して実施してまいります。

#### 3 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

- 地元行政や林業従事者などと連携し、地元で生産されたエネルギー資源を地元で活用する「電気地産地消」スキームに基づくバイオマス発電事業を、2025年までに4ヶ所で開催します。
- 里山づくり活動や清掃活動など、地域住民や地元行政と連携、協働して環境活動を推進します。
- タケエイグループの取り組みを、地域住民をはじめとするステークホルダーの皆さまに広く知っていただくため、工場見学を定期的に実施します。また、子どもたちがゴミの分別の知識を学ぶことができる環境学習の場を提供します。

タケエイグループは、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。



## エコとわざコンクールでタケエイ賞を贈呈

『「エコとわざ」コンクール』は、小中学生の環境意識啓発を目的としたもので、2020年度は「さあ、持続可能な社会の実現に向け、一歩を踏み出そう!豊かで美しい地球を未来につなぐために、私たちに何ができるかな」というテーマに対し459点の応募がありました。

その中から、茨城県の小学生 和泉田明里さんが考えた「まあいい地球 リサイクルリレーで バトンをつなごう」をタケエイ賞として選定しました。表彰式は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ残念ながら中止となりましたが、当社グループより賞状と記念品を贈呈しました。

# 環境負荷低減活動

タケエイグループでは省エネルギーやCO<sub>2</sub>削減に向けた取り組みを行うことで、事業活動における環境への影響を最小限に抑えることに努めています。

## ハイライト



### ■ 収集運搬における取り組み

タケエイグループでは車両運行時に、デジタルタコグラフ等による環境負荷の把握、積載効率の向上、エコドライブの徹底を図っています。また、新規車両の導入時は各種環境配慮型車両（低燃費車、低排出ディーゼル車）を優先的に選択するなどし、環境負荷の低減に努めています。

### ■ 事業所における取り組み

タケエイグループの各事業所では、高効率照明機器やインバータ式コンプレッサー等の省エネ機器導入、電力デマンドの管理によるエネルギー使用の平準化などを通じて、省エネルギー対策に取り組んでいます。

特に、デマンド監視装置により電気使用量を見える化することで、電力消費の傾向を把握し、ピーク抑制や省エネ対策に活用するとともに、従業員の電気使用量に対する意識づけにもつながっています。

また各事業所で使用する重機についても、低燃費型重機への順次入替えを通じて環境負荷の低減を図っています。

### ■ 最終処分場における取り組み

タケエイグループが保有する最終処分場では、法令や条例等の規制に基づく定期的な水質管理を徹底しています。

また(株)タケエイエナジー&パークでは、過去に埋立てを終え

た最終処分場の跡地を有効利用し、パークゴルフ場や太陽光発電事業の運営を行っています。

### ■ オフィスにおける取り組み

オフィスにおいては、WEB会議システムを利用し遠方からの人の移動にかかる時間やエネルギーなどを抑制する取り組みを行っています。加えて、一部の会議においてタブレットを活用したペーパーレス化も推進しています。

また、クールビズの推進、空調設備の温度設定に関する啓発活動、照明機器のこまめな消灯などの取り組みを通して、電気使用量の低減を図っています。

(株)タケエイ 本社においてはエコバックの配布やウォーターサーバーの導入により、ビニール袋やペットボトルの使用量削減を図っています。また、地球温暖化対策や気候変動対策といった社会課題への注目がますます高まっていることを受け、地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>に関する基礎的な知識や、地球温暖化に対する世界や日本の動きに関する勉強会を開催しました。各拠点からのリモート参加を含め156名の従業員が参加しました。今後も、気候変動やプラスチックごみの問題について、従業員の意識向上に取り組んでいきます。

## お客さまのために

タケエイグループでは廃棄物の適正処理・リサイクルのみならず、グループ各社がそれぞれの強みを活かしたサービスをお届けすることで、多様化するニーズに対応しています。

### ハイライト



### 品質管理における取り組み

(株)タケエイではISO9001の認証を取得し、品質管理を行っています。産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分といった処理業務およびその管理業務\*<sup>1</sup>において、PDCAサイクルによる取り組みを行うことにより、継続的な品質の向上を目指しています。2020年11月には拡大審査を受審し、認証が得られたため、同社東京リサイクルセンターも認証の対象となりました。



タケエイグループでは当社のほかにも、環境保全(株)\*<sup>2</sup>および富士車輛(株)\*<sup>3</sup>において同認証を取得しています。

引き続き、品質管理体制を強化するとともに、顧客満足のさらなる向上に取り組んでいきます。

- \*1 産業廃棄物の処理業務における営業部門、収集運搬部門、最終処分部門、管理部門、中間処理部門(川崎リサイクルセンター/東京リサイクルセンター/四街道リサイクルセンター)
- \*2 本社および仙台支店(環境関連の側面についての分析、調査、試験、測定およびそれら業務に関する報告書作成および証明業務)
- \*3 本社、東京支店、大阪支店、東京営業所、名古屋営業所、福岡営業所

### 建設現場における取り組み

(株)タケエイではお客さまのご要望に応じて、建設現場における廃棄物の分別作業をサポートしています。分別作業を支援するための専門チームが現場を定期巡回し、廃棄物の分別・保管状

況を確認し、お客さまのニーズに合わせた分別方法を提案しています。

また、現場監督や作業員の方々に対する分別講習会を積極的に実施しています。講習会では、保管されている混合廃棄物の中からまだ分別できるものを取り分けていくような現場作業員参加型の講習もあり、廃棄物の分別知識をより高めていただけるように工夫しています。

分別作業の支援を行うことにより、お客さまの環境負荷低減に貢献し、当社グループのリサイクル工場におけるリサイクルの効率化にもつながっています。

### リサイクルセンターにおける取り組み

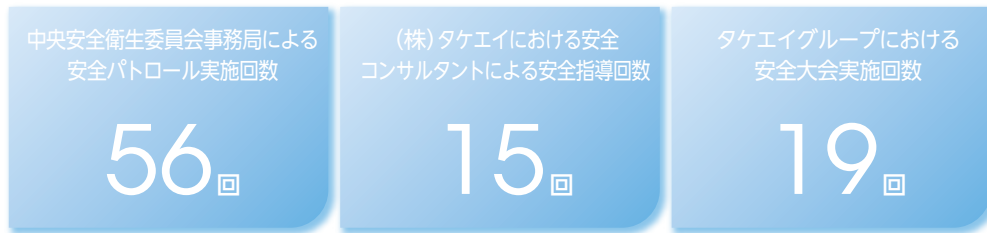
(株)タケエイ川崎リサイクルセンターでは、コロナ禍において産業廃棄物の搬入量が一時的に減少したことをきっかけに、廃棄物の選別を強化しました。その結果、混合廃棄物の中からリサイクルできる品目の採取量が増加し、廃棄物の体積を減らすとともにリサイクル品の品質も向上しました。引き続き、搬出先の品質基準にあった処理を進めていきます。

また、同リサイクルセンターでは発電燃料としてRPFの増産に注力しており、選別の強化により抜き取った廃プラスチックをRPFの原料としています。脱炭素化による新たな電力需要へ対応すべく、取り組みを継続していきます。

# 安全衛生のために

タケエイグループでは、安全衛生基本方針を「安全はすべてにおいて優先する」という理念のもと定め、従業員が安心安全に働くことのできる職場づくりを推進しています。

## ハイライト



## 安全衛生基本方針

タケエイグループでは安全と衛生の確保を事業活動の基本ととらえ、全従業員が健康で安心安全に働ける職場づくりのため、下記のように安全衛生基本方針を策定しています。今後も本方針に沿って活動し、事故や災害の防止に努めています。

### タケエイグループ安全衛生基本方針

#### 【理念】

##### 「安全はすべてにおいて優先する」

作業や業務においては、リスクの削減を最優先して安全の確保を行う。

#### 【基本方針】

無事故無災害を目的とし、リスク削減について以下を基本方針とする。

1. 法令や規程等を守ることによって、安全で衛生的な職場環境を形成する。
2. 技能の向上とその継承を図ることによって、安全作業と技術を身に付ける。
3. あらかじめ作業の有害・危険性をとらえ、事前に安全衛生対策を講じる。

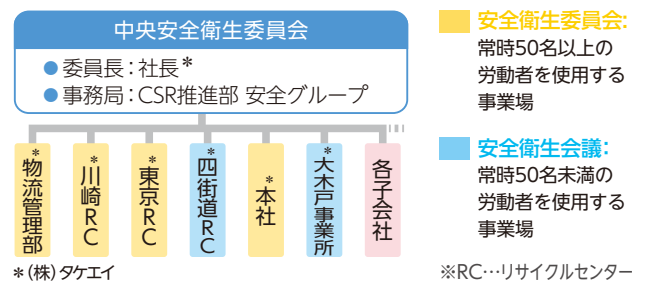
#### 【行動指針】

1. 法令に従った管理を実施する。
2. 基本方針に従い期間的な目標を掲げ、その目標を達成するための計画と効果的な安全衛生活動を実施する。
3. 作業・業務に従事する一人ひとりが安全衛生を意識し行動する。

## 安全衛生推進体制

タケエイグループでは、各職場の安全衛生活動をより充実させるために中央安全衛生委員会を設置し、全社的な推進体制を整備しています。同委員会は毎月開催されており、現場で実務に当たる担当者にも参加してもらうことで、グループ全体の安全衛生に関する事項を実践的な側面から協議しています。従業員の労働災害の防止、健康維持・増進や快適な職場づくりを推進するとともに情報共有の場としても活用されています。また、中央安全衛生委員会の議事内容は、グループウェアにて周知しています。

### 安全衛生委員会組織図



### 安全活動

タケエイグループでは従業員に対し安全にかかわるさまざまな教育訓練を実施し、労働災害の未然防止に努めています。

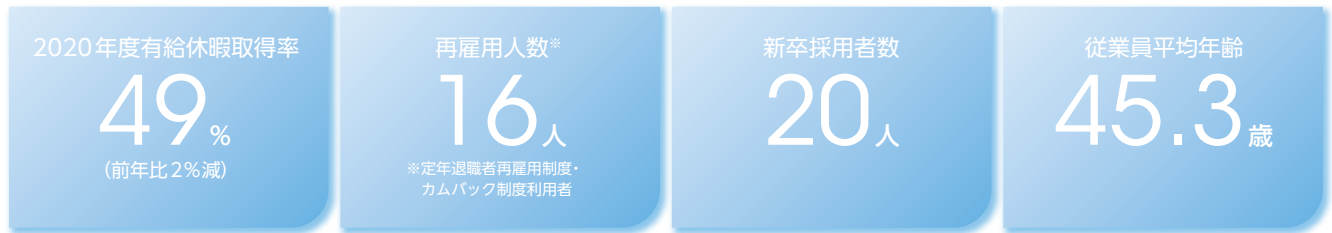
(株)タケエイでは、安全活動としてヒヤリハットの提案やリスクアセスメントの取り組みを行うとともに、定期的に外部の労働安全コンサルタントによる安全指導や産業医の巡視を実施し、無事故無災害に向けて取り組んでいます。



## 従業員のために

タケエイグループでは、人材育成の推進や多様な働き方の実現を目指し人事諸制度の見直し等を進めることで、従業員一人ひとりがその能力を十分発揮し、生き生きと働くことができるような職場環境づくりに努めています。

### ハイライト



### ワークライフバランスの推進

(株)タケエイでは、半日単位で取得可能な年次有給休暇の付与、育児休業や介護休業、短時間勤務等の制度を導入しており、従業員それぞれの状況に応じて柔軟に利用できるように環境を整えています。

年5日の年次有給休暇の取得については、取得計画の策定を促すとともに、結果を随時確認することで取得促進を図っています。

またパソコンの長時間使用抑止システムによる残業時間の把握・管理も行い、従業員の長時間残業の防止に努めています。

	2018年度	2019年度	2020年度	
有給休暇取得率	44%	51%	49%	
産前産後休暇取得人数	男	—	—	
	女	4人	7人	4人
育児休業取得人数	男	0人	1人	1人
	女	4人	7人	4人

※データは(株)タケエイ在籍者が対象  
※産前産後休暇の取得は原則女性のみ

### 人事制度

タケエイグループは従業員一人ひとりが培ってきた知識・経験を貴重な財産ととらえ、さまざまな働き方のニーズに応えられるような制度を整えています。

2020年度は人事制度の見直しを進め、評価制度の改定や新制度の拡充を行いました。

#### エリア職転換制度・職群転換制度

(株)タケエイでは、エリア職転換制度および職群転換制度を導入しています。

転居を伴う異動がないエリア職を新たに設けるとともに、総合職・一般職間での職群転換を可能とする制度も設け、キャリアパスの多様化を図っています。

#### 社内公募制度

(株)タケエイでは、従業員に対して自らの意思でさまざまな仕事に挑戦できる機会を提供するとともに、当社グループとしても意欲のある人材の最適配置を行うことを目的に、社内公募制度を導入しています。

#### カムバック制度

(株)タケエイでは、育児・介護・配偶者の転勤といったライフイベント等により退職した元社員が再度入社を希望した場合に求人情報を提供するカムバック制度を導入しています。

#### リファラル制度

(株)タケエイでは、会社が掲載した求人に対して(株)タケエイの社員が自分の知り合いを紹介する制度であるリファラル採用制度を導入しています。

## 定年退職者再雇用制度

(株)タケエイでは、定年退職者に対して再雇用制度を設けています。毎年多くの従業員がこの制度を利用し、長年培ってきた知識や経験を活かしています。

		2018年度	2019年度	2020年度
再雇用人数	男	8人	3人	14人
	女	0人	1人	2人

※データは(株)タケエイ在籍者が対象

## 各種表彰制度

(株)タケエイでは、長年勤めてきた従業員を慰労し、今後も新たな活力をもって業務に臨んでいただけるよう、永年勤続表彰制度を設けています。勤続10年ごとに賞状等の授与、リフレッシュ休暇の付与を行っています。2020年度は30年表彰が8人、20年表彰が17人、10年表彰が18人となりました。

またタケエイグループにおいては、連結収益向上に顕著な貢献をした個人・部門・子会社等を対象とした表彰制度も設けています。

## 教育・研修にかかわる取り組み

(株)タケエイでは、従業員の能力・知識向上に向けたさまざまな教育・研修を行っています。新入社員研修や管理職研修といった階層別研修をはじめ、当社の事業と関連が深い廃棄物処理法に関する専門教育、部門ごとに行う勉強会や実技講習会への参加など、実務に直結した教育も随時実施しています。

### 新入社員教育

例年4月から6月にかけて行う新入社員研修では、各社のリサイクル工場見学や座学等の集合研修を行ったあと、営業業務や配車業務、事務業務などについて実務を通じて学びます。一部の集合研修は、当社だけでなく当社グループの新入社員も含め全員で行っており、グループの垣根を超えた交流の場にもなっています。2020年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、一部の研修をリモート等に切り換えて実施しました。また、エルダー制度の導入により、年齢の近い若手社員が年間を通じて新入社員の実務指導や職場生活でのフォローを行います。これにより、フォ

ローに当たる若手社員のコミュニケーションスキルや実務指導力の向上にもつながっています。

## 資格取得支援制度

(株)タケエイでは資格取得支援制度を設け、従業員の自己啓発の推進に取り組んでいます。環境社会検定(eco検定)をはじめ、業務を行う上で有用な約40種類の資格を対象とし、合格者に対して受験費用の補助や報奨金の支給を行っています。

2020年度はこの制度を利用して延べ32名の従業員が資格を取得しました。

種別	資格名称	2020年度取得者数
国家資格	運行管理者、社会保険労務士、土木施工管理技士など	11人
公的資格	ビジネス実務法務検定、簿記検定など	3人
民間資格	環境社会検定試験(eco検定)、ビジネス会計検定試験など	18人

## 従業員の健康にかかわる取り組み

(株)タケエイでは、従業員が心身ともに健康な状態で働けるよう、健康診断やストレスチェック等を実施しています。

健康診断では、労働安全衛生法に基づく定期健康診断および特殊健康診断のほか、希望に応じてほかの項目も受診できるようオプション健診の拡充も図っています。

また、メンタルヘルスケアの一環としてストレスチェックを実施し、希望者に対して産業医との面談の機会を設けることで個人のメンタルケアを行っています。ストレスチェックの結果はより良い職場環境づくりへも役立てています。

当社では、従業員の健康意識を高める活動の一環として、全国労働衛生週間の期間である2020年10月1日から7日にかけて、本社会議室に超音波骨密度測定器を設置しました。設置期間中は多くの従業員が利用し、自らの健康管理活動に役立てました。

## 地域・社会とのかかわり

タケエイグループは地域の一員として社会と共生する企業であり続けるために、地域住民の皆さまとのコミュニケーションを大切にしています。

### ハイライト



### 千葉県と災害廃棄物の対応に関する協定を締結

(株)タケエイは、千葉県千葉市に大木戸最終処分場を保有しています。そのご縁もあり、同市と「災害時における応急対策の協力に関する協定書」を締結し、2020年8月に千葉市役所にて締結式が行われました。この協定は、千葉市において地震や風水害等による大規模災害が発生し、災害廃棄物に係る応急対策を実施する必要があると千葉市が認める場合に、当社が速やかに必要な人員・資機材等を出動させることを可能にするものです。

また、この協定に基づき、2019年10月の豪雨災害によって崩落し、土砂が流出した斜面の修復・緑化等の工事を行いました。

当社グループは今後も、これまで携わってきた災害廃棄物処理のノウハウや経験豊富な人員を活かし、被災地域の迅速な復旧に協力していきます。



千葉市との協定締結式((株)タケエイ)

### 育樹活動への参加

2020年7月、福島県南相馬市で(公財)鎮守の森のプロジェクトが主催する育樹活動が行われ、(株)田村バイオマスエナジーの社員有志が参加しました。また、同月に宮城県岩沼市で行われた育樹活動にも(株)タケエイ 東北支店および環境保全(株)の社員有志が参加し、沿岸部を中心に植樹された苗木の草抜きを行いました。

タケエイグループでは同法人の主催する植樹・育樹活動に継続して参加しており、今後も緑の防潮堤へと育てていく苗木の成長に貢献していきます。

### 清掃・美化活動

タケエイグループでは、地域の自治体などが主催する清掃活動に積極的に参加しているほか、事業所周辺での自主的な清掃・美化活動なども定期的に行っています。

### 保土ヶ谷バイパス・上川井町小川アメニティにおける環境活動

2020年12月、(株)池田商店において保土ヶ谷バイパスおよび小川アメニティ上流における清掃活動を実施しました。同社では毎週、周辺地域の環境活動を目的にリサイクル工場から上川井町小川アメニティまでのパトロールを行っており、清掃活動や草刈り等に取り組んでいます。

### 諏訪湖アダプトプログラムへの参加

(株)信州タケエイでは「諏訪湖アダプトプログラム」に参加しており、諏訪湖周辺の石彫公園の中央付近から衣之渡川までの区間において定期的な美化活動を実施しています。

また同社は、2021年2月に「長野県SDGs推進企業登録制度」に登録されており、今後も地域の皆さまとともに事業活動・社会活動を通じてSDGs達成を目指していきます。

### ひまわりプロジェクト

(株)北陸環境サービスでは里山づくり活動の一環として、同社が拠点をおく石川県金沢市平粟地区の休耕田をお借りし、ひまわり畑づくりに取り組んでいます。5月頃から畝立てや種まきを行い、8月には早咲きのひまわりが開花しました。早咲きの品種と遅咲きの品種を育てており、約1か月近くにわたって地元の皆さまにひまわり鑑賞を楽しんでいただきました。

## いわて県産木材等利用推進フォーラム

(株)大仙バイオマスエナジーは、2020年10月に岩手県盛岡市にて開催された「いわて県産木材等利用推進フォーラム」に登壇しました。

「地産地消木質バイオマス発電～持続可能な発電所構築に向けて」をテーマに、同社の取り組みについて講演を行いました。また、その後のパネルディスカッションにも参加し、岩手県内における木質バイオマスエネルギーの推進について意見を交わしました。



「いわて県産木材等利用推進フォーラム」に登壇((株)大仙バイオマスエナジー)

## 新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する取り組み

2020年4月、(株)信州タケエイは同社が拠点を置く長野県諏訪市教育委員会に、除菌脱臭スプレー200本を寄贈しました。

また、2020年6月には一般財団法人タケエイSDGs推進財団を通じて、石川県輪島市、福島県相馬市等にサージカルマスク計2万5千枚を寄贈しました。

タケエイグループでは社内においてもWEB会議の推進や飛沫防止パネルの設置等の対策を進め、地域の皆さまとともに新型コロナウイルス感染症拡大予防に取り組んでいます。

## バス停留所の寄贈

(株)大仙バイオマスエナジーは、(株)門脇木材および(株)瀧神巧業と共同で(株)大仙バイオマスエナジー協和発電所の前にあるバス停留所の改築を行い、2020年9月に新たな停留所を大仙市に寄贈しました。

新しい停留所には同発電所の発電用タービンを冷却する際に発生する温水を活用した床暖房設備を設置しており、寒さの厳しい季節でも快適に利用いただけるようになりました。

改築に際しては、(株)門脇木材には建材として秋田杉を提供頂き、(株)瀧神巧業には建築作業を担当頂きながら、費用は(株)大仙バイオマスエナジーが(一財)タケエイSDGs推進財団から一部寄付も受けて負担いたしました。

当社グループは今後も事業活動を通じた地域貢献活動を推進していきます。



余熱を活用した床暖房を備えた新しいバス停留所((株)大仙バイオマスエナジー)



# 役員一覧(2021年6月末現在)

## 取締役

### 代表取締役会長／CEO、渉外

<b>三本 守</b> <small>みつもと まもる</small>	1977年3月	武栄建設興業(株)(現(株)タケエイ)取締役就任
	1983年6月	当社代表取締役社長就任
	2002年5月	(株)ジプロ(現(株)ギプロ)設立 代表取締役就任
	2003年3月	(株)リサイクル・ピア設立 代表取締役就任
	2004年6月	新エネルギー供給(株)設立 取締役就任
	2006年8月	(株)門前グリーンパーク設立 代表取締役就任(現任)
	2007年9月	(株)グリーンアローズホールディングス設立 代表取締役就任(現任)
	2008年6月	(株)グリーンアローズ関東設立 代表取締役就任
	2008年10月	(株)エコプラント設立 取締役就任
	2010年6月	当社代表取締役会長就任(現任)
	2011年4月	(株)リサイクル・ピア取締役会長就任
	2013年6月	新エネルギー供給(株) 代表取締役就任
	2020年5月	(一財)タケエイSDGs推進財団代表理事就任(現任)

創業以来50年以上にわたり当社の経営に携わり、産業廃棄物処理業界の先駆者として長年活躍し、環境事業に関する豊富な経験と実績、幅広い知見を有しております。今後とも当社グループの持続的な成長の実現と企業価値向上に寄与することができると判断し、選任しております。

### 重要な兼職の状況

- (株)門前グリーンパーク代表取締役
- (株)グリーンアローズホールディングス代表取締役
- (一財)タケエイSDGs推進財団代表理事

### 代表取締役社長／COO

<b>阿部 光男</b> <small>あべ みつお</small>	2016年3月	(株)りそな銀行常務執行役員退任
	2017年3月	りそな決済サービス(株)代表取締役社長退任
	2017年4月	当社入社 執行役員経営企画本部副本部長就任
	2018年1月	当社執行役員営業本部副本部長兼関連事業部長就任
	2018年6月	(株)門前グリーンパーク監査役就任 当社取締役兼常務執行役員経営企画本部部長就任
	2019年6月	(株)T・Vエナジーホールディングス代表取締役就任(現任) 当社代表取締役社長就任(現任)
	2020年4月	(株)T&Hエコみらい代表取締役就任(現任)
	2020年5月	市原グリーン電力(株)取締役就任(現任)
		(一財)タケエイSDGs推進財団理事就任(現任)
	2021年1月	(株)TEC武隈代表取締役就任(現任)

2017年4月に当社へ入社し、2019年6月に代表取締役社長就任。長きにわたり金融機関に在籍した豊富な知識と経験を有し、優れた経営手腕を發揮し取締役会の機能強化に貢献しております。今後とも当社グループの持続的な成長の実現と企業価値向上に寄与することができると判断し、選任しております。

### 重要な兼職の状況

- (株)T・Vエナジーホールディングス代表取締役
- (株)T&Hエコみらい代表取締役
- (株)TEC武隈代表取締役

### 取締役／営業本部

<b>小池 陽二</b> <small>こいけ ようじ</small>	1984年1月	佐川急便(株)退社
	1984年2月	泰武興運(株)(現(株)タケエイエナジー&パーク)入社
	1989年4月	当社転籍
	2005年4月	当社千葉事業部長就任
	2007年6月	当社営業本部副本部長就任
	2008年4月	当社執行役員営業本部副本部長就任
	2010年4月	当社執行役員営業副本部長就任
	2011年4月	当社執行役員営業副本部長兼神奈川営業部長就任
	2012年4月	(株)北陸環境サービス取締役就任
	2012年6月	当社常務執行役員営業本部部長兼神奈川営業部長就任
	2013年6月	当社取締役兼常務執行役員営業本部部長兼神奈川営業部長就任
	2013年12月	当社取締役兼常務執行役員営業本部部長就任
	2014年4月	当社取締役兼常務執行役員営業本部部長兼戦略営業部長就任
	2015年6月	当社取締役兼常務執行役員営業本部部長就任
	2016年6月	当社取締役兼専務執行役員営業本部部長就任
	2016年8月	大月ウッドサプライ(株)取締役就任(現任)
	2018年11月	当社取締役兼専務執行役員営業本部部長兼戦略営業部長就任
	2020年4月	当社取締役兼専務執行役員営業本部部長就任(現任) (株)T&Hエコみらい取締役就任(現任)

長年営業部門の責任者を務め、2013年6月の当社取締役就任以降もこれまでに培った豊富な経験と実績を活かし、同部門を牽引することで当社グループの業績向上に貢献してまいりました。今後とも当社グループの持続的な成長の実現と企業価値向上に寄与することができると判断し、選任しております。

### 取締役／管理本部

<b>吉富 英郎</b> <small>よしとみ ひでお</small>	2003年11月	(株)りそな銀行退社
	2003年12月	当社入社 営業企画部長就任
	2007年6月	当社事業統括部長就任
	2008年4月	当社執行役員営業本部副本部長就任
	2008年11月	当社執行役員経営企画本部財務経理部長就任
	2010年4月	当社執行役員管理本部人事総務部長就任
	2011年3月	当社執行役員管理本部部長兼人事総務部長就任
	2011年4月	(株)タケエイパークゴルフマネジメント(現(株)タケエイエナジー&パーク)取締役就任
	2011年7月	諏訪重機運輸(株)(現(株)信州タケエイ)監査役就任
	2011年12月	銜野口木材起業監査役就任
	2012年6月	当社常務執行役員管理本部部長兼人事総務部長就任
	2012年10月	橋本建材興業(株)監査役就任
	2013年4月	(株)タケエイエナジー&パーク監査役就任
	2013年6月	当社取締役兼常務執行役員管理本部部長兼人事総務部長就任
	2020年5月	(一財)タケエイSDGs財団監事就任(現任)
	2021年4月	当社取締役兼常務執行役員管理本部部長就任(現任)

金融機関に長年勤め、2003年12月の当社入社以降は営業・財務経理・管理部門等の多岐にわたる業務に携わり、豊富な経験を有し当社業務を深く熟知しております。2013年6月に取締役就任以降も経験と幅広い知見を活かし、取締役会の機能強化に貢献してまいりました。今後とも当社グループの持続的な成長の実現と企業価値向上に寄与することができると判断し、選任しております。

### 重要な兼職の状況

- (株)タケエイエナジー&パーク監査役

## 取締役／事業本部

<b>かすや たけし</b> <b>粕谷 毅</b>	1982年4月	武米建設興業(株)(現(株)タケエイ)入社
	2004年4月	当事業本部神奈川事業部長就任
	2005年11月	(株)リサイクル・ピア営業部長就任
	2011年7月	(株)リサイクル・ピア取締役営業部長就任
	2014年6月	(株)池田商店代表取締役社長就任
	2018年1月	当社常務執行役員事業本部長就任
	2018年6月	(株)タケエイエナジー&パーク代表取締役社長就任(現任)
	2018年6月	当社取締役兼常務執行役員事業本部長兼川崎リサイクルセンター長就任
	2020年4月	当社取締役兼常務執行役員事業本部長就任
	2020年5月	市原グリーン電力(株)取締役就任
	2021年6月	当社取締役兼常務執行役員事業本部長就任(現任)

1982年4月に当社入社以降、営業部門や当社グループ会社役員を歴任するなど豊富な経験と知識を有しております。2018年6月に取締役就任以降も、処理部門を指揮するなど優れた手腕を発揮し当社グループの成長に大きく貢献しております。今後とも当社グループの持続的な成長の実現と企業価値向上に寄与することができると判断し、選任しております。

### 重要な兼職の状況

(株)タケエイエナジー&パーク代表取締役

## 取締役／経営企画本部

<b>うえかわ たけし</b> <b>上川 毅</b>	2011年10月	(株)あおぞら銀行(旧(株)日本債券信用銀行)退社
	2012年9月	シティバンク銀行(株)退社
	2012年10月	当社入社 社長室担当部長就任
	2012年11月	社長室長就任
	2014年6月	富士車輛(株)代表取締役社長就任
	2018年6月	当社執行役員営業本部副本部長兼関連事業部担当就任
	2018年8月	当社執行役員事業監査部担当就任
	2019年6月	(株)門前クリーンパーク取締役就任(現任)
		(株)T・Vエナジーホールディングス監査役就任(現任)
		当社取締役兼常務執行役員経営企画本部長就任(現任)
	2021年1月	(株)TEC武隈監査役就任(現任)

金融機関での豊富な経験と知見を有しており、2012年10月に当社入社後、子会社役員を歴任し、その後は当社グループ関係会社の管理、監督を行う部門で各社のコンプライアンス・健全性の観点から業務の品質向上に取り組んでおります。今後とも当社グループの持続的な成長の実現と企業価値向上に寄与することができると判断し、選任しております。

### 重要な兼職の状況

(株)T・Vエナジーホールディングス監査役

(株)TEC武隈監査役

## 社外取締役

<b>よこい なおと</b> <b>横井 直人</b>	1975年4月	監査法人朝日会計社(現有限責任 あずさ監査法人)入社
	1979年8月	公認会計士登録
	1990年5月	監査法人朝日新和会計社(現有限責任あずさ監査法人)社員
	2000年5月	朝日監査法人(現有限責任 あずさ監査法人)代表社員
	2013年6月	有限責任 あずさ監査法人退職
	2014年6月	当社取締役就任(現任)
	2014年6月	ニチバン(株)監査役就任(現任)
	2015年3月	(株)ジェイエシーリクルートメント監査役就任(現任)
	2015年6月	(株)いなげや取締役就任

公認会計士として事業法人の監査責任者を務め、豊富な専門知識と経験を有しております。2014年6月に当社取締役に就任以降、独立した客観的な立場で、グループ経営方針に係る課題について、積極的に意見・助言を行っております。また、公認会計士として長年培われた専門的な視点から、当社の経営の透明性の確保及びコーポレート・ガバナンスのさらなる強化に繋がるものと判断し、選任しております。

### 重要な兼職の状況

ニチバン(株)監査役

(株)ジェイエシーリクルートメント監査役

## 社外取締役

<b>うめだ あきひこ</b> <b>梅田 明彦</b>	2003年6月	(株)りそな銀行代表取締役副頭取退任
	2005年4月	入や萬成証券(株)(現ばんせい証券(株))取締役副会長退任
	2007年6月	(株)レオパレス21専務取締役退任
	2012年6月	レオパレス少額短期保険(株)(現あすか少額短期保険(株))代表取締役社長退任
	2012年6月	プラザ貸付管理保証(株)監査役就任
	2015年6月	当社取締役就任(現任)
	2016年6月	青木あすなろ建設(株)取締役就任(現任)

経営者として幅広い分野での豊富な経験と高い見識を有しております。2015年6月の当社取締役就任以降、独立した視点で、グループ経営方針に係る課題について、積極的に意見・助言を行っております。今後においても、当社経営陣から独立した客観的・中立的見地で、取締役会に対して適切な牽制機能を果たし、当社の経営の透明性の確保及びコーポレート・ガバナンスのより一層の強化に繋がるものと判断し、選任しております。

### 重要な兼職の状況

青木あすなろ建設(株)取締役

## 監査役

### 監査役

<b>かない あきら</b> <b>金井 昭</b>	2007年12月	(株)りそな銀行退職
	2013年10月	第一生命保険(株)退職
	2014年1月	当社入社
	2014年4月	当社監査部長就任
	2014年6月	富士車輛(株)監査役就任
	2014年6月	(株)金山商店(現(株)タケエイメタル)監査役就任
	2017年6月	当社監査役就任(現任)

## 社外監査役

<b>いししい ともし</b> <b>石井 友二</b>	1984年2月	公認会計士登録
	1996年4月	(株)アクシスウェイブ(ホワイトボックスコンサルティング(株)に商号変更後、ホワイトボックス(株)に吸収合併)設立 代表取締役就任
	2003年4月	監査法人ブレインワーク代表社員就任(現任)
	2003年12月	ホワイトボックス(株)設立 代表取締役就任(現任)
	2005年6月	当社監査役就任(現任)
	2007年4月	(株)ココチケア取締役就任
	2014年3月	(株)ブロードリーフ監査役就任

### 重要な兼職の状況

監査法人ブレインワーク代表社員

ホワイトボックス(株)代表取締役

## 社外監査役

<b>すぎの しょうこ</b> <b>杉野 翔子</b>	1973年4月	弁護士登録
	1973年4月	藤林法律事務所入所
	1994年4月	藤林法律事務所パートナー弁護士(現任)
	1997年4月	司法研修所教官
	2000年4月	東京家庭裁判所調停委員
	2005年7月	公害等調整委員会委員
	2007年3月	木徳神糧(株)監査役就任(現任)
	2008年6月	(株)イマジカ・ロボットホールディングス社外監査役
	2014年6月	青木信用金庫員外監事就任
	2014年6月	河西工業(株)補欠監査役就任
	2017年3月	(株)MDI取締役就任
	2018年6月	当社監査役就任(現任)
	2019年6月	日本証券金融(株)取締役就任(現任)
	2019年9月	(株)MDI監査役就任

### 重要な兼職の状況

木徳神糧(株)監査役

青木信用金庫員外監事

日本証券金融(株)取締役

(株)MDI監査役

## 会社概要(2021年3月末現在)

会社名	株式会社 タケエイ		
代表者	代表取締役社長 阿部 光男		
設立年月日	1977年3月7日		
資本金	8,489百万円		
所在地	東京都港区芝公園二丁目4番1号A-10階 TEL:03-6361-6830(代表) FAX:03-6361-6835		
従業員数	単体 624名	連結	1,358名
上場取引所	東京証券取引所市場第1部		

### 事業推移

タケエイグループ主力の廃棄物処理・リサイクル事業においては、新型コロナウイルス感染拡大による影響は各社ごとにばらつきがあるものの、全体としては軽微に推移しています。グループ各社は、グループ経営方針である「廃棄物の再資源化」のための受入体制を万全にし、収益機会を取りこぼすことのないよう事業に取り組んでいます。

再生可能エネルギー事業においては、首都圏最大級の木質バイオマス発電出力を誇る市原グリーン電力(株)が業績に大きく寄与し、東北地方3か所の発電所も安定稼働しております。

環境エンジニアリング事業においては、新型コロナウイルス感染拡大の不透明感が続く経営環境にありますが、環境コンサルティング事業とともに、廃棄物処理・リサイクル事業、再生可能エネルギー事業との相乗効果を図る製品開発、研究技術開発にも積極的に取り組んでいます。

この結果、当連結会計年度の売上高は42,062百万円(前連結会計年度比11.5%増)、営業利益は4,067百万円(同23.3%増)、経常利益は3,893百万円(同28.7%増)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は2,272百万円(同28.7%増)となりました。

### 事業の内容

タケエイグループは「総合環境企業」を目指し、廃棄物処理・リサイクル事業を主な事業とし、併せて付帯する事業として、再生可能エネルギー事業、環境エンジニアリング事業、環境コンサルティング事業にも取り組んでいます。

#### 廃棄物分野



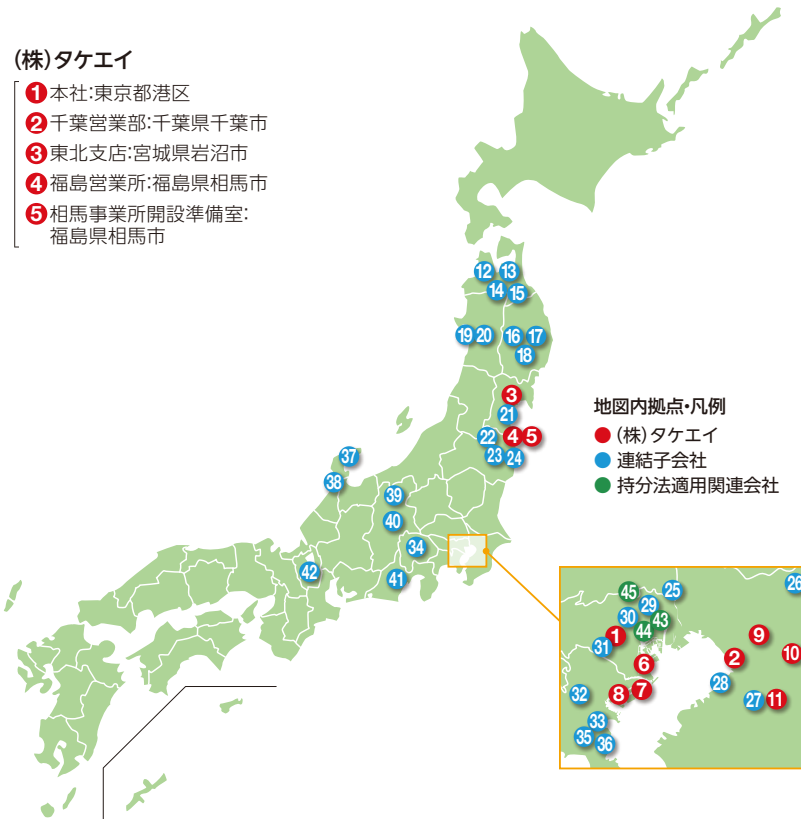
#### 非廃棄物分野



# 事業拠点(2021年6月末現在)

## (株)タケエイ

- ① 本社:東京都港区
- ② 千葉営業部:千葉県千葉市
- ③ 東北支店:宮城県岩沼市
- ④ 福島営業所:福島県相馬市
- ⑤ 相馬事業所開設準備室:  
福島県相馬市



### 地図内拠点・凡例

- (株)タケエイ
- 連結子会社
- 持分法適用関連会社

- ⑥ 東京リサイクルセンター  
混合廃棄物のリサイクル工場  
[東京都大田区]
- ⑦ 川崎リサイクルセンター  
混合廃棄物のリサイクル工場  
[神奈川県川崎市]
- ⑧ 塩浜リサイクルセンター  
積替保管施設  
[神奈川県川崎市]
- ⑨ 四街道リサイクルセンター  
混合廃棄物のリサイクル工場  
[千葉県四街道市]
- ⑩ 成田最終処分場  
安定型最終処分場  
[千葉県成田市]  
(埋立完了・次期処分場開業準備中)
- ⑪ 大木戸最終処分場  
安定型最終処分場  
[千葉県千葉市]
- ⑫ 環境保全(株)  
計量証明事業、環境影響調査等  
[本社:青森県平川市  
支店:宮城県仙台市、東京都港区]
- ⑬ (株)津軽バイオマスエナジー  
バイオマス発電事業  
[青森県平川市]
- ⑭ (株)津軽あつぷるパワー  
小売電気事業  
[青森県平川市]
- ⑮ (株)津軽エネベジ  
熱エネルギーを利活用した農業  
[青森県平川市]
- ⑯ (株)花巻バイオマスエナジー  
バイオマス発電事業  
[岩手県花巻市]

- ⑰ 花巻バイオチップ(株)  
バイオマス燃料製造事業  
[岩手県花巻市]
- ⑱ (株)花巻銀河パワー  
小売電気事業  
[岩手県花巻市]
- ⑲ (株)大仙バイオマスエナジー  
バイオマス発電事業  
[秋田県大仙市]
- ⑳ (株)大仙こまちパワー  
小売電気事業  
[秋田県大仙市]
- ㉑ (株)グリーンアローズ東北  
廃石膏ボードのリサイクル工場  
[宮城県岩沼市]
- ㉒ 東北交易(株)  
汚泥・燃えがら・ばいじん・鉱さい等の  
リサイクル工場  
[福島県福島市]
- ㉓ (株)田村バイオマスエナジー  
バイオマス発電事業  
[福島県田村市]
- ㉔ (株)ふくしま未来パワー  
小売電気事業  
[福島県田村市]
- ㉕ (株)ギプロ  
廃石膏ボードのリサイクル工場  
[埼玉県八潮市]
- (株)タケエイエナジー&パーク
- ㉖ 太陽光発電事業  
[千葉県成田市]
- ㉗ パークゴルフ場運営  
[千葉県千葉市]

- ㉘ 市原グリーン電力(株)  
バイオマス発電事業  
[千葉県市原市]
- ㉙ (株)アースプレイザル  
環境調査、エンジニアリングレポート、  
不動産鑑定業  
[東京都千代田区]
- ㉚ (株)T・Vエナジーホールディングス  
再生可能エネルギー事業への投融資・運営  
[東京都港区]
- ㉛ (株)タケエイ林業  
山林の経営・管理等  
[東京都港区]
- ㉜ (株)池田商店  
廃コンクリート・鉱さい等のリサイクル工場  
[神奈川県横浜市]
- ㉝ (株)グリーンアローズ関東  
廃石膏ボードのリサイクル工場  
[神奈川県横須賀市]

## (株)タケエイグリーンリサイクル

- ㉞ 剪定枝のリサイクル工場、堆肥(有機)製造・販売  
[山梨県富士吉田市]
- ㉟ バイオマス発電事業  
[神奈川県横須賀市]
- ㊱ (株)横須賀アーバンウッドパワー  
小売電気事業  
[神奈川県横須賀市]
- ㊲ (株)門前クリーンパーク  
管理型最終処分場  
[石川県輪島市]  
(開業準備中)
- ㊳ (株)北陸環境サービス  
管理型最終処分場  
[石川県金沢市]  
廃プラスチックのリサイクル工場  
[石川県金沢市]
- ㊴ イコールゼロ(株)  
廃酸・廃アルカリ等のリサイクル工場  
[長野県長野市]
- ㊵ (株)信州タケエイ  
混合廃棄物のリサイクル工場  
[長野県諏訪市]  
廃コンクリート等のリサイクル工場  
[長野県安曇野市]  
解体工事  
[長野県松本市]  
安定型最終処分場  
[長野県塩尻市]
- ㊶ (株)タケエイメタル  
鉄・非鉄スクラップ等のリサイクル工場  
[静岡県静岡市]
- ㊷ 富士車輛(株)  
環境装置・環境プラント・  
特殊車両の開発・製造・販売  
[本社工場:滋賀県守山市  
支店:東京都港区、大阪府大阪市]
- ㊸ (株)グリーンアローズホールディングス  
廃石膏ボードリサイクル事業への投資  
[東京都港区]
- ㊹ (株)V・Tエナジーマネジメント  
バイオマス発電所の運転・維持管理  
[東京都港区]
- ㊺ 循環資源(株)  
バイオマス発電燃料の貯蔵・販売  
[東京都港区]



2021年7月吉日

各 位

株式会社タケエイ

## タケエイグループCSR報告書2021のご送付

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度弊社は「タケエイグループCSR報告書2021」を発行いたしましたので、ご案内申し上げます。

本報告書では、当社グループの事業が担う役割を紹介するとともに、2020年度の主な取り組みについて3つの観点(環境・社会・ガバナンス)から報告しております。

なお、裏面にアンケートをご用意いたしましたので、ご一読の後、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。今後の活動や本報告書をより充実させるための参考にさせていただきます。

今後とも、さらなるご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

### 《お問い合わせ先》

株式会社タケエイ

CSR推進部 ISO推進グループ

〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階

TEL:03-6361-6836 FAX:03-6361-6839

HP : <http://www.takeei.co.jp/>



# 「タケエイグループCSR報告書2021」アンケート

株式会社タケエイ

CSR推進部 ISO推進グループ 行

## FAX.03-6361-6839

「タケエイグループCSR報告書2021」をお読みいただき、ありがとうございました。

今後の活動や本誌をより充実させるため、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

### Q1 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか？

- お客さま      お取引先      タケエイグループ事業所の近隣の方      株主・投資家
- 行政機関      調査・研究機関      NGO/NPO      学生
- 企業・団体のCSR・環境担当者      協力会社      タケエイグループ従業員
- タケエイグループ従業員の家族      その他( )

### Q2 本報告書を何でお知りになりましたか？

- タケエイグループ従業員から入手      タケエイグループ事業所・工場への訪問時
- タケエイホームページ      説明会、セミナー、展示会等      その他( )

### Q3 本報告書は読みやすかったですか？

- 読みやすい      読みにくい

その理由(複数回答可)

- レイアウトが見やすい      レイアウトが見にくい      情報量が多い      情報量が少ない
- 文字が大きい      文字が小さい      イラスト・写真が多い      イラスト・写真が少ない
- その他( )

### Q4 タケエイグループのCSR活動への取り組み・方針について、ご理解いただけましたか？

- 十分に理解し、期待している      理解できた      あまり理解できない      期待もできず、理解もできない

### Q5 下記A～Cの質問に該当する項目番号を選んでご記入ください(それぞれ3つまで)。

- A** 特に関心を持たれた記事は? ( )
- B** 説明が不十分と感じた記事は? ( )
- C** 理解できなかった記事は? ( )

- ①編集指針      ②TOP MESSAGE      ③特集 TREホールディングス誕生
- ④タケエイグループの価値向上プロセス      ⑤タケエイグループの事業概要
- ⑥財務ハイライト      ⑦再資源化ソリューション      ⑧タケエイグループのCSR
- ⑨コーポレート・ガバナンス      ⑩環境とのかかわり      ⑪事業活動に伴う環境負荷
- ⑫エコ・ファーストの取り組み      ⑬環境負荷低減活動      ⑭お客さまのために      ⑮安全衛生のために
- ⑯従業員のために      ⑰地域・社会とのかかわり      ⑱役員一覧      ⑲会社概要      ⑳事業拠点

### Q6 本報告書やタケエイグループの活動に期待すること、ご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

( )

◆ご協力ありがとうございました。ご回答内容は、特定の個人を識別することができない統計情報として集計・分析・活用させていただきます。



## 株式会社タケエィ

〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目4番1号 A-10階

お問合せ先: CSR推進部 ISO推進グループ

TEL.03-6361-6836 FAX.03-6361-6839

<http://www.takeei.co.jp>

